



株式会社  
オリエンタルコンサルタンツ

■ ごあいさつ

# 社会価値創造企業へ



株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
代表取締役社長 野崎 秀則

当社は昭和32年12月の創立以来、高度化、多様化する社会のニーズに対応するため、事業の多様化、組織の変革・拡大を図りながら知的サービスを提供してまいりました。そして、令和4年12月に創立65周年という節目を迎えることができました。これも、お客様である国民や発注者の皆様、株主、役職員やご家族の方々、諸先輩の方々等、多くの関係者からのご支援、ご指導、ご鞭撻によるものと深く感謝申し上げます。

創立より60年以上にわたり、私たちは社会インフラ整備に関わる企業として、「安全、安心、快適、活力」という価値を提供してまいりました。そして、さらに魅力ある社会や持続可能な社会を創造するため、2030年ビジョンとして「社会価値創造企業」を掲げました。

私たちは、「革新」と「変革」と「挑戦」をキーワードに、これからも国や地域とのより高い信頼関係を築き、「社会価値創造企業」を目指してまいります。

■ 国内主要事業所

- 支社
- 営業事業所



■ 我が社の組織体制 (2025年12月時点)

- [グループ会社]  
株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングス  
株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル  
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング  
株式会社エイテック  
株式会社リサーチアンドソリューション

- [子会社]  
株式会社中央設計技術研究所  
株式会社ジェーエステック  
株式会社オリエンタル群馬  
株式会社南アルプスゲートウェイ  
株式会社フーディア  
株式会社瀬戸酒造店  
株式会社オリエンタルアグリ

※2014年10月に、海外事業を担うGC事業本部をグループ会社の子会社として分社化し、株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバルを設立しました。

■ 事業の多様化と組織の変革・拡大



■ 経営理念 (MISSION) ~私たちの使命~

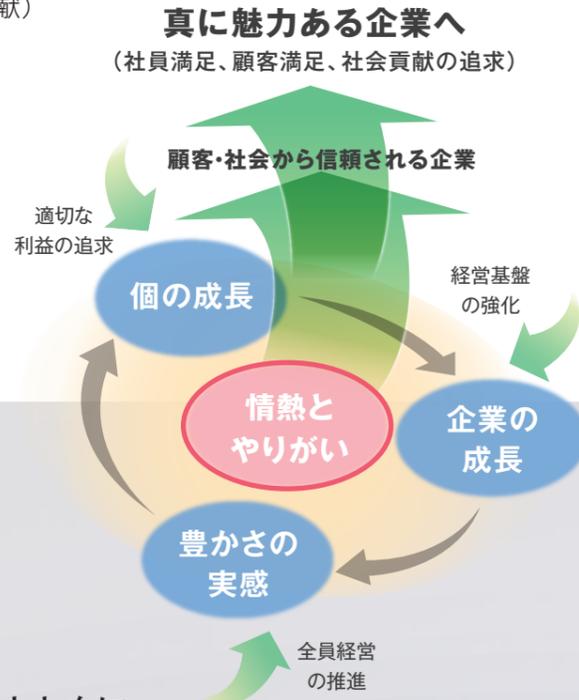
私たちは、社員満足、顧客満足、社会貢献を追求することで、真に魅力ある企業を実現します。

- ・ 全社員の物心両面の豊かさを追求する (社員満足)
- ・ お客様に最高の総合的・知的サービスを提供する (顧客満足)
- ・ 世界の人々の豊かなくらしと夢の創造の実現に貢献する (社会貢献)

■ 経営姿勢 (VALUE) ~私たちの経営の考え方~

私たちは、真に魅力ある企業の実現のために、経営にあたって以下の4つの考え方を大切にします。

- ・ 顧客や社会から信頼される企業になる
- ・ 個の成長、企業の成長、豊かさの実感の好循環を生み出し、情熱とやりがいを醸成する
- ・ 好循環を生むために、適切な利益を追求する
- ・ 役職員一人ひとりが主役となる全員経営の推進、経営基盤の強化を行う



■ 行動指針 (BEHAVIOR) ~私たちの行動の規範~

私たちは、全員経営の推進により、自らが成長するとともに、仲間のため、顧客のため、社会のために貢献します。

当事者意識を持つ

役職員一人ひとりが経営理念の遂行に責任があることを自覚する。

チームワークをもって協働する

役職員相互がコミュニケーションを充実し、仲間を尊重し、協働する。

自主・自律の精神で最善を尽くす

役職員一人ひとりが革新と変革、挑戦の気質を持ち、自己研鑽に努め、一人ひとりの持ち場で自ら進んで行動し、自分の頭で考え、最善を尽くす。

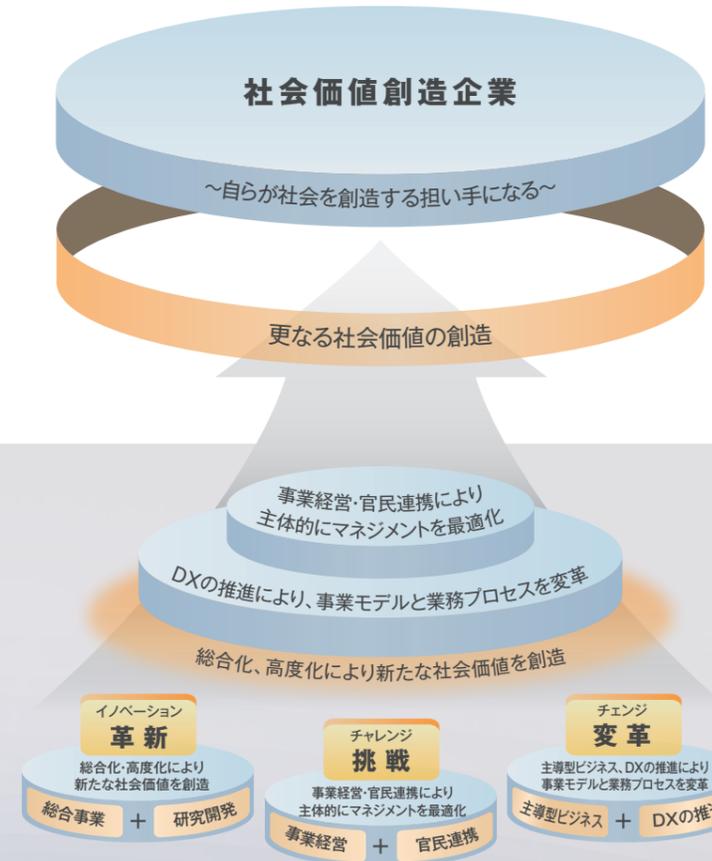
■ 我が社における重点化事業

7つの重点化事業に対して、それぞれ具体的なプロジェクトを立ち上げ、事業を展開しています。

道路整備・保全事業	流域管理・保全事業	防災事業	交通運輸事業
地方創生事業	地域経営推進事業	海外事業	

■ 2030年ビジョン

日本トップブランドの技術により、社会価値創造企業になる  
~「全員経営」と「情熱とやりがい」により、社会価値を創造する担い手になる~



■ 社会価値創造企業への成長戦略

社会の変化を柔軟に捉え、既往の事業を充実するとともに、幅広い分野に事業を拡大し、“更なる社会価値の創造”に取り組みます。これまで当社が提供してきた「安全・安心・快適・活力」という価値に加え、「魅力ある社会づくり」や「持続可能な社会づくり」につながる価値を提供していきます。

イノベーション      チェンジ      チャレンジ  
「革新」と「変革」と「挑戦」

革新 (イノベーション)

事業の上流から下流までを実施する垂直統合と複数の事業の複合化による“総合事業”や、先進技術の導入に向けた“研究開発”の推進により、新たな社会価値を創造します。また、総合事業を地域や行政区域などの所定のエリアにおいて実施するエリアマネジメントを展開します。

変革 (チェンジ)

DXの推進により、事業モデルと業務プロセスを変革します。事業モデルの変革では、インフラ整備・維持管理の効率化や地域インフラのマネジメントの最適化を実現するとともに、地域のデータプラットフォームを整備・活用し、施策展開の総合化・効率化により、エリアマネジメントの最適化を実現します。また、業務プロセスの変革では、先進技術の導入により、生産性改革と働き方改革を推進します。

挑戦 (チャレンジ)

自らが投資し、事業者としてビジネスを行う“事業経営”を推進するとともに、官と民が持てるリソースを最大限に有効活用する“官民連携”に積極的に取り組みます。これにより、地域インフラのマネジメントを含めて持続可能な地域をマネジメントするエリアマネジメントに対して、特に経営という視点で展開する“インフラ経営・エリア経営”に挑戦します。

■ 我が社が目指すDX (デジタルトランスフォーメーション) の推進

DXにより更なる顧客満足、社員満足を図り、社会貢献を実現する



顧客にとって価値ある、高品質なサービスの提供

社員にとって効率的・効果的な業務実施環境の実現

- DX事業モデルを最重点プロジェクトとして推進
- 情報発信の強化
- DX推進体制の強化

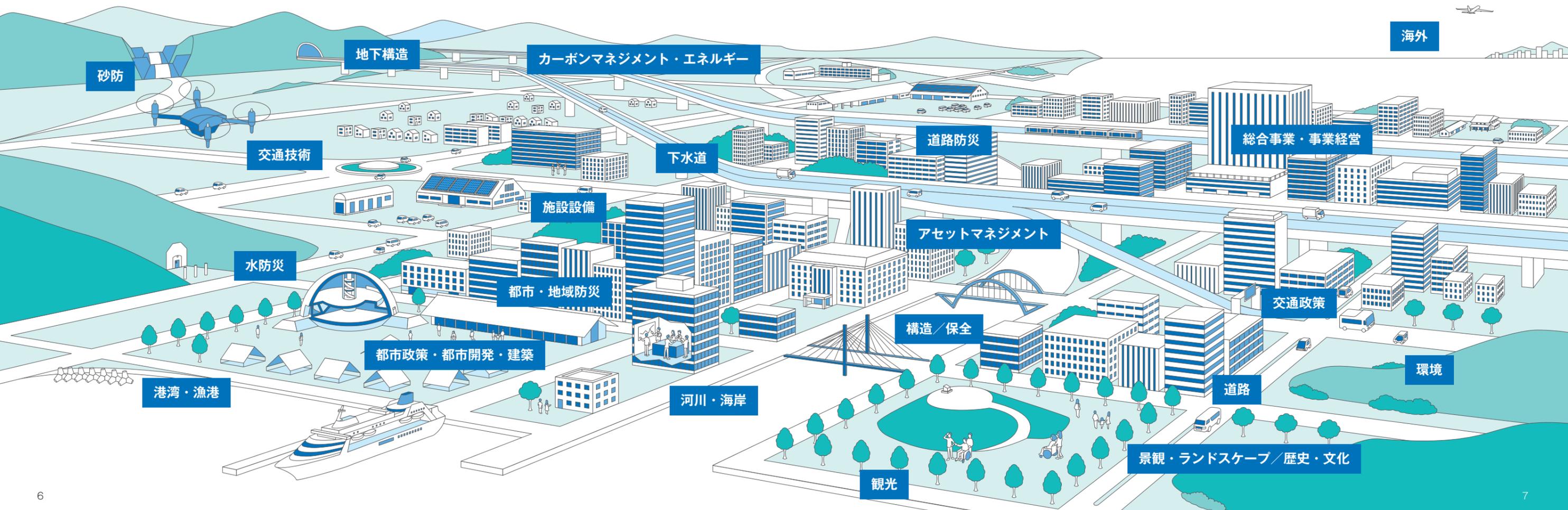
- IT基盤整備3カ年計画の確実な推進
- 業務効率化に向けたシステム、仕組み等の推進
- 通信環境改善と併せた情報セキュリティの充実

■ 事業分野

オリエンタルコンサルタンツは、幅広い分野に事業を拡大し、「社会価値創造企業」を目指します。

道路整備・保全事業	<b>道路</b>	道路連絡施設設計 長岡スマートロードアウト 地域高規格道路設計	ラウンドアバウト設計 PA連結スマートIC設計 電線共同溝PFI事業	舗装の維持管理検討 ICT施工 BIM/CIMを活用した道路設計	事業推進PPPによる道路事業監理 道路防災事業 UAVレーザを活用した検討	震災復興事業 地震被災道路の復旧 地震被災道路の復旧対応支援	地震災害対策検討	▶ p10	
	<b>構造／保全</b>	海洋架橋の計画・設計・維持管理計画 都市内高速道路高架構橋の計画・設計 日本の大動脈となる高速道路高架構橋の計画・設計	高塩害地域の100年橋梁の実現 海洋架橋の計画・設計	河川橋梁の計画・設計 復興を支える橋の計画・設計 構造物デザイン	河川橋梁の耐震補強設計 大規模修繕 橋本地震に耐えた橋の計画・設計	実験・解析 土木遺産の再生		▶ p12	
	<b>地下構造</b>	海底トンネル設計 山岳トンネル設計 非常警報設備	避難施設計画・設計 トンネル防災設備 CIMの活用(山岳トンネル計画・施工支援)	トンネル維持管理					▶ p14
	<b>施設設備</b>	インフラ設備 河川施設 無線通信施設・河川施設・道路施設	道路施設 無線通信施設・河川施設・ダム施設 都市空間施設	無線通信施設 トンネル設備 トンネル施設					▶ p16
	<b>アセットマネジメント</b>	インフラマネジメント支援システム【橋梁版】 インフラマネジメント(橋梁) インフラマネジメント(道路)	インフラマネジメント(空港) 公共施設マネジメント 維持管理計画の策定支援						▶ p15
流域管理・保全事業	<b>河川・海岸</b>	3D河川管内図の整備 親水空間創出 施設配置の検討	河川護岸整備 かわまちづくり 付替え河道の整備	災害復旧 河川管理CIM 健全度調査	3D河川管内図の活用 河川管理施設整備総合CIM 海岸における災害復旧	動的耐震解析 水源地理管理		▶ p20	
	<b>港湾・漁港</b>	岸壁設計 災害復旧 防災船着場設計	防潮胸壁設計 棧橋設計 付帯施設設計	陸揚設計 高潮シミュレーション 漁港計画	港湾脱炭素化推進計画 維持管理			▶ p22	
	<b>砂防</b>	CIMの活用 災害復旧 斜面崩壊対策	AIの活用						▶ p24
	<b>下水道</b>	ウォーターPPP 浸水対策 構造解析	長寿命化 下水道計画 老朽化調査・診断	ストックマネジメント計画					▶ p25
防災事業	<b>道路防災</b>	防災啓発 リスク評価 防災拠点整備	啓発計画 事業推進PPP 教育・訓練	地震被害軽減工法の開発				▶ p28	
	<b>水防災</b>	津波避難施設 津波シミュレーション 雨水流出抑制の普及・啓発	ハザードマップ 水災害に対するスマート防災 リスク評価					▶ p29	
	<b>都市・地域防災</b>	避難行動計画 国土強靱化地域計画や地域防災計画等 リスク分析	リスクコミュニケーション 防災行政支援 教育・訓練					▶ p30	

交通運輸事業	<b>交通技術</b>	自動運転車も考慮した交通運用検討 交通ビッグデータの活用 交通円滑化システム開発	3D都市モデルの活用 ETC通信を用いた調査手法の開発 3D点群データを活用した交通安全対策検討	AI技術の活用 生活道路安全対策へのAI技術の活用 新たな遠隔監視技術の導入	ドライビングシミュレータの活用 2車線高速道路の交通安全対策評価 AI技術を活用した交通事故分析	新たな道路構造(ラウンドアバウト) 新たな道路構造(二段階橋脚施設)	▶ p34	
	<b>交通政策</b>	賑わい創出の社会実験 スマートICによる利便性向上 物流拠点整備検討	低炭素型移動支援システム導入計画 魅力的でまちの賑わいを生む交通結節点事業 都市構造のリバーシブルを推進する道路空間再編	道路空間を活用したモータリコネクトの強化 生活道路の安全対策 官民連携による観光地の活性化	オンデマンド車両MaaSの実証事業 案内誘導計画 新たな移動手段に合わせた道路空間形成事業	モビリティハブの形成事業 中山間地域でのデマンド型乗合バスサービス 自動運転サービス実証実験	▶ p36	
地方創生事業	<b>都市政策・都市開発・建築</b>	大規模ターミナル駅周辺整備の計画 ウォーカーフレンドなまちづくり コンパクトシティ	駅周辺まちづくりの推進 拠点開発計画/PRE活用計画 団地地域活性化対策検討	官民連携事業化支援 大規模ターミナル駅前広場の整備 水辺再生と都市再開発	地下歩道の賑わい創出 ウォーターフロントエリアのまちづくり 鉄道施設のデザイン・設計・監理		▶ p40	
	<b>景観・ランドスケープ／歴史・文化</b>	ランドスケープデザイン 公園のデザイン・設計・監理 インクルーシブな遊び場づくり	路線と換気塔のデザイン 都市再生のデザイン 橋梁の景観デザイン・設計	歴史公園及びガイダンス施設の設計 鉄道遺産の再生 歴史展示館のリニューアル	国指定天然記念物の保存・利活用 歴史まちづくり 文化財の活用・情報発信		▶ p42	
	<b>観光</b>	ユニバーサルツーリズムの促進 地域観光に係る中間ビジョンの策定 地域ブランドの構築と普及	ラグジュアリーホテルの取り組み推進 インフラツーリズムの推進 観光交通の取組み	訪日外国人向け観光コンテンツの開発 エコツーリズムの振興 オンラインツアーのプロデュース	訪日プロモーション 地域独自の観光コンテンツ開発 DX推進による観光コンテンツ開発	地域の魅力を発信する物産商品の開発 「食」の開発を通じた地域ストーリー発信		▶ p44
	<b>環境</b>	グリーンインフラ 自然再生 水環境保全	河川環境保全 自然環境保全 環境アセスメント					▶ p46
地域経営推進事業	<b>カーボンマネジメント・エネルギー</b>	再生可能エネルギー事業 再生可能エネルギー導入計画 ゼロカーボン戦略	脱炭素先行地域 EVバスの普及促進 建築物のZEB化				▶ p47	
	<b>総合事業・事業経営</b>	公園の運営管理(指定管理) 公園の魅力向上事業(PPP事業) 地域会社(100%子会社)創設	総合公園の運営管理 マリンスポーツによる賑わい創出 地方都市の地域活性化事業(PPP事業)	道の事業(PPP事業) 公園の運営管理(指定管理) 農産物加工販売支援	スポーツ関連事業 地産地消事業(事業経営) 古民家の運営管理	地産地消の取組 ワーケーション事業 観光型観光客の誘致 観光型観光客の誘致 観光型観光客の誘致	観光拠点施設の運営 「食」の発信による地域活性化 観光型観光客の誘致	▶ p50
海外事業	<b>海外</b>	海外インフラ支援 総合都市交通計画 海外インフラ整備	公共交通改善事業 海外インフラ輸出 国際会議運営	国内企業の海外展開支援 国内中小企業の海外展開支援 海外地球温暖化対策	JCM事業		▶ p56	



# 社会・経済を支える道路インフラを創る・守る

～社会インフラの整備・保全をDXの推進による変革を踏まえ、高度技術と全体マネジメントで最適化～

社会構造の変化に合わせて持続的な社会・経済活動を支えるために、道路インフラの整備は今後も欠かせません。

一方で、高度経済成長期に建設された多くの社会インフラが老朽化するなか、既存ストックの有効活用と維持管理・更新を計画的に実施  
私たちは、国内外で数々の表彰を受けるなど、これまでに培ったナンバーワン・オンリーワンの技術やマネジメント力を駆使し、DXへの変革

し、社会インフラを保全していかなければなりません。

も念頭に、社会インフラの整備・保全事業に総合的に継続的に取り組んでまいります。



歴史遺産に寄り添う橋梁の計画・設計

有明筑後川大橋

筑後川を渡り、選奨土木遺産（デ・レイケ導流堤）を跨ぐ橋として、遺産の集積地域である周辺環境や導流堤との連続性等に配慮した景観検討を行い、国内初となる2連の鋼単弦中路アーチ橋の設計を実施しました（令和3年度土木学会田中賞、土木学会デザイン賞2024優秀賞受賞）。

## 道路

交通計画、橋梁、地下構造、景観、環境、防災などの多角的な視点から、地域のニーズに即した検討を行い、すべての利用者にとって「安全」「安心」「快適」な道路空間の計画・設計を行なっています。

### 道路連絡施設設計

#### 大橋JCTの計画・設計及び交通運用検討

都心部のコンパクトなジャンクションにおいて、路面標示や案内看板を色・デザインで統一することを提案するなど、安全な走行空間を構築するための計画・設計を行いました。



### 民間スマートIC・ラウンドアバウト

#### VISON多気(日本最大級の商業施設)

地方創生の大規模民間プロジェクトとして、2021.7に三重県多気町にグランドオープンした「VISON多気」に基本計画の段階から主幹企業として関わりました。公共インフラと融合させた新しい民間開発事業として、民間施設直結スマートIC、施設内公共道路整備とラウンドアバウト導入、国道改築、駐車場配置計画など、インフラ整備全般に関するコンサルティングを行いました。



### 地域高規格道路設計

#### 銚子連絡道路予備設計、詳細設計

銚子連絡道路(約30km)の環境調査や交通量推計などの初期段階から、路線計画や道路設計に至るまで、工事及び管理を除く道路事業の全般に携わりました。



### ラウンドアバウト設計

#### 須坂市RAB予備設計、詳細設計

道路交通法の改正後、本格運用された日本初のラウンドアバウトの設計を実施しました。他の地域においても、地元への交通ルールを含めた説明会や関係機関協議・調整などの取り組み、導入検討、調査・分析、社会実験、計画・設計、施工計画など、実施しています。



### PA連結スマートIC設計

#### 遠州森町スマートIC設計

新東名高速道路遠州森町PAにおけるスマートICの導入に伴い、スマートIC及び周辺町道の計画・設計、周辺道路の案内検討を実施しました。



### PA連結スマートIC設計

#### 由布岳PAスマートIC設計

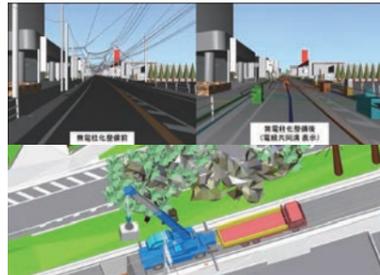
大分自動車道由布岳PAにおけるスマートIC導入に伴い、道路・構造物詳細設計の実施、段階施工ステップを検討しました。



### 電線共同溝PFI事業

#### 東小磯、東沼波、富谷、榎津、黒崎電線共同溝PFI事業

PFI手法を活用した電線共同溝事業に参画しています。調査・設計、施工、維持管理の一連の流れを通してDXの取り組みを推進しています。



### 舗装の維持管理検討

#### 舗装修繕設計

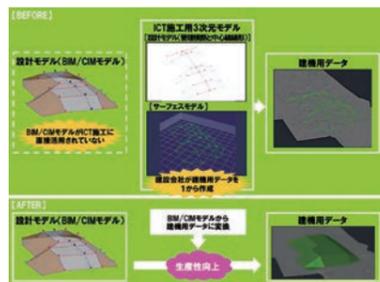
これまでの舗装の維持管理は、舗装表面の状況のみから修繕を行ってききましたが、舗装の内部調査によりその劣化状況を把握できるようになりました。これにより、最適な修繕方法が選定できるようになりました【舗装修繕設計実績(令和7年10月現在:15件)】。



### ICT施工

#### BIM/CIMによるICT土工導入促進支援

BIM/CIMデータを設計・工事・維持管理で活用するデータサプライチェーンの実現と、多様な条件下におけるICT土工の実施を可能にし、ICT施工による生産性向上を図るため、「ICT土工導入促進支援サービス」を提供します。



### BIM/CIMを活用した道路設計

#### 東紀州地区道路設計

道路予備設計において、BIM/CIMを導入した設計を行い、数量の自動算出や構造物設計との整合確認など、3次元データを活用した道路設計を実施しました。



### BIM/CIMを活用した道路設計

#### 名護東道路(数久田地区)道路予備修正設計業務

屈曲した道路線形に対し、BIM/CIMの導入による3次元モデルを作成することで、信号や案内標識の視認性を視覚的に検証し、安全性に優れた道路設計を実施しました。



### 事業推進PPPによる道路事業監理

#### 三陸沿岸道路事業監理業務

官民連携の新たな試みである、事業推進PPP手法による道路事業監理業務を受注し、意欲的に活動を展開しています。



### 道路防災事業

#### 台風災害による道路復旧

台風による記録的大雨で斜面崩壊が起きた現場において、応急復旧から被災調査、復興に向けた計画・設計をワンストップで対応しました。



### UAVレーザを活用した検討

#### 落石・転石調査(陸前高田市)

UAVレーザを活用した斜面リスク評価を目的とし、UAVレーザ測量を実施して得られた地形図を用いて地形判読により転石・浮石を抽出し、現地調査にてその適合性を検証しました。



### 震災復興事業

#### 陸前高田市公共駐車場詳細設計

陸前高田市震災復興事業の一環として嵩上げ部の中心市街地に位置する商業施設に併設される公共駐車場の詳細設計を行いました。



### 地震被災道路の復旧

#### 阿蘇地区道路詳細設計業務

熊本地震による大規模斜面崩壊に起因する阿蘇大橋の落橋により寸断された国道57号の北側復旧ルート詳細設計を実施しました。



### 地震被災道路の復旧対応支援

#### 令和6年能登半島地震

道路や斜面の被災状況調査、国の補助申請資料の作成、復旧工事に向けた実施設計等を、全国の技術者が地域の早期復旧に向けて支援しています。



### 地震災害対策検討

#### 国道防災検討業務

首都直下地震による被災等に対して効果的な対応を図ることを目的として、業務継続計画をはじめとする指針・マニュアル等の改訂、防災訓練の企画・運営、防災に関する各種調査・資料作成を実施しました。



## 構造（橋梁・特殊構造・解析実験）／保全（点検・補修補強設計）

ニーズが多様化している現代、橋にも「美しさ」、「低環境負荷」、「低ライフサイクルコスト」等、様々な機能が要求されています。これらのニーズに応えるため、積極的に新たな技術・工法・手法を用い、次の世代に残る橋の計画・設計を行っています。

### 海洋架橋の計画・設計・維持管理計画

#### 新湊大橋

国際拠点港湾伏木富山港の臨港道路における景観検討及び複合斜張橋のPC側径間、接合桁等の詳細設計を実施しました（平成24年度土木学会田中賞、照明学会照明普及賞、土木学会デザイン賞2015奨励賞受賞）。



### 高塩害地域の『100年橋梁』の実現

#### 数久田ICオンランプ橋

一般国道58号名護東道路の全線開通の最終橋梁を、設計コンセプト・ポリシーと最新技術を駆使し、高塩害地域の『100年橋梁』を計画・設計しました（令和3年度全日本建設技術協会 全建賞受賞）。



### 海洋架橋の計画・設計

#### 小名浜マリブリッジ

福島県いわき市小名浜港に建設された橋長927mの5径間連続PCエクストラード橋であり、臨港道路橋として日本で初めて採用した形式です。小名浜港および周辺地区のランドマークとなっています（平成29年度土木学会田中賞、平成30年度PC工学会賞作品賞、2019年日本コンクリート工学会賞作品賞受賞）。



### 自然を守る橋梁の計画・設計

#### 徳之山八徳橋

景観性を考慮した3径間連続PCエクストラード橋であり、世界最大スパン（220m）となっています（平成19年度PC技術協会賞受賞）。



### 河川橋梁の計画・設計

#### 由利橋（由利タワー）

秋田県由利本荘市を流れる子吉川に架かる由利橋の架替え事業であり、鋼2径間連続斜張橋を計画・設計しました。



### 自然を守る橋梁の計画・設計

#### 紀勢宮川橋

ダブルワーレン形状の採用により、周囲の景観と調和がとれた機能美を有するトラス橋としました（平成17年度土木学会田中賞受賞）。



### 河川橋梁の計画・設計

#### 多摩川スカイブリッジ

川崎市殿町と羽田空港を結ぶ一級河川多摩川に架かる橋であり、貴重な干潟を保護し、河口の広がりを感じる水平基調の景観と調和する構造として、中央支間長240mの鋼3径間連続複合ラーメン箱桁橋を採用しました（令和3年度土木学会田中賞受賞）。



### 復興を支える橋の計画・設計

#### 陸前高田ベルトコンベア橋

『奇跡の一本松』（写真右手奥）とともに復興のシンボルとなったベルトコンベア橋『希望のかけ橋』を計画・設計しました。



### 自然を守る橋梁の計画・設計

#### 七色高架橋

雄大な自然に恵まれた地区の橋梁を踏まえ、高強度材料の採用による地形改変を最小限化し、環境保全に配慮した橋梁設計をしました（平成17年度土木学会田中賞、全日本建設技術協会全建賞受賞）。



### 構造物デザイン

#### 出島表門橋

長崎出島復元プロジェクトの一環として海外コンサルタントと共同で設計した、最新技術を用いた人道橋です。歴史的遺産である出島に負荷をかけないように対岸から張り出した特殊構造となっています（平成29年度土木学会田中賞、2018年グッドデザイン賞受賞）。



### 復興を支える橋の計画・設計

#### 普代大橋

復興道路として開通した「普代道路」に位置する長大高架橋で、国内最大規模の鋼・コンクリート複合ラーメン橋を採用し、軟弱地盤上の耐震性確保と津波避難路の機能を担保した設計を行いました。



### 河川橋梁の耐震補強設計

#### 片品川橋

耐震性向上策として炭素繊維シート補強、支承交換、ダンパーブレースの採用など既存の技術を駆使した設計を行いました（平成28年度土木学会田中賞受賞）。



### 大規模修繕

#### 首都高速1号羽田線勝島地区の補強設計

東京オリンピック（昭和38年）時期に開通した、3径間連続PC箱桁橋のゲルバー構造部分を連続化、さらに連続化できない箇所は新設橋脚で支えるという大規模修繕を行い、今後の維持管理性を大きく向上させる設計としました（平成28年度土木学会田中賞受賞）。



### 熊本地震に耐えた橋の計画・設計

#### 新阿蘇口大橋

阿蘇への扉を開くランドスケープとして鋼二輪センローゼ橋の詳細設計を実施しました。平成28年の熊本地震の際にも健全性を保ち、現在も優雅な姿を残しています。



### 実験・解析

#### 遮音板の落下物防止性能に関する解析・実験

高速道路の遮音壁に衝突した落下物を道路外に落下させないことを目的として、遮音板の落下物防止性能の向上を図るための改良検討を解析と実験を併用して実施しました。



### 土木遺産の再生

#### 霞橋

土木遺産として歴史的価値の高い「旧江ヶ崎跨線橋」の部材を極力再利用し、かつ特徴的な意匠を活かすことを両立させ、現在の安全基準を満たす「現役の道路橋」として再生しました（平成25年度土木学会田中賞受賞）。



## 地下構造（トンネル・地下道・地下駐車場・地下空間・特殊構造・解析実験）

トンネルや地下構造物は、地上空間の環境保全や土地の有効活用に大きく貢献しています。当社は、トンネル本体・設備の計画から維持管理、補修・補強まで一貫した多くのトンネル技術（山岳トンネル、開削トンネル、シールドトンネル、沈埋トンネルなど）を提供しています。



### 山岳トンネル設計

#### 栗子トンネル

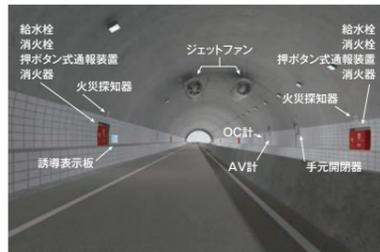
福島・山形両県境に位置する延長約9kmの長大トンネルを設計しました。無料道路では日本最長、全道路トンネルでも東京湾アクアトンネルに次いで5番目に長いトンネルです。



### 非常警報設備

#### 大槌第2トンネル他

釜石市大槌町に位置する大槌第2トンネル他5トンネルについて、津波等の災害に強い復興道路事業としてトンネル内の非常用設備、照明設備、換気設備、受配電設備の設計を実施しました。



### 避難施設計画・設計

#### 横浜環状北線・北西線避難施設設計

閉鎖された空間であるトンネル内で火災が発生した場合に甚大な被害が生じる恐れがあるため、避難施設を設置します。当社は、避難施設を構成する避難扉、すべり台構造、階段構造等について実証実験を含めた設計サービスを提供し、安全安心な地下空間の利用に貢献します。



### トンネル防災設備

#### 相馬西道路トンネル防災設備

高規格道路である相馬西道路の設備へ電源供給を行う電気室の建築設計や、道路利用者に安全安心を提供するトンネル防災設備の設計を実施した。復興プロジェクトであり、当社が建築設計から設備設計までワンストップで設計を行ったことで、円滑な工事発注につながり、事務所長表彰を受賞しました。



### 海底トンネル設計

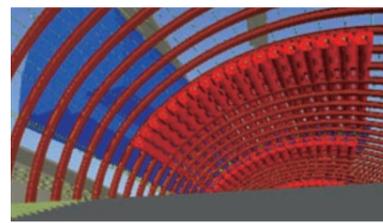
#### 海の森トンネル（沈埋トンネル・東京港臨港道路南北線事業）

海の森トンネル（東京港臨港道路南北線整備事業）は、有明10号地と中央防波堤外側地区を結ぶトンネルである。当社は海の森トンネルの海底部分となる沈埋トンネル約930mの設計を実施した。構造は制作期間が短い鋼殻内部にコンクリートを充填するフルサンドイッチ工法が採用され、函の長さは国内最長となる134mとなる。フルサンドイッチ工法とは、函体外面・内面のすべてを鋼殻で制作し、この部材間にコンクリートを打設して一体にする方法で、制作ドックで鋼殻を組立て、海上に運搬し、コンクリート打設を行うことで、同時に後続函の鋼殻の組立てが可能となる。沈埋工法を採用した（日建達「技術省」受賞）。沈埋トンネルは、国内で30事例ほどあり、直近では約10年前の「那覇港臨港道路（沖縄県）」「新若戸道路（北九州市）」「大阪夢咲トンネル（大阪市）」となるが、すべてにオリエンタルの設計技術が用いられている。

### CIMの活用（山岳トンネル計画・施工支援）

#### 名塩道路城山トンネル他詳細修正設計業務

ICT（3次元測量、BIM/CIM）の高度利用により、ECI事業における関係者間の情報共有を迅速化し、技術提案・設計デザインの精度向上、対外協議の円滑化をはかりました（令和元年度 i-Construction大賞優秀賞受賞）。



### トンネル維持管理

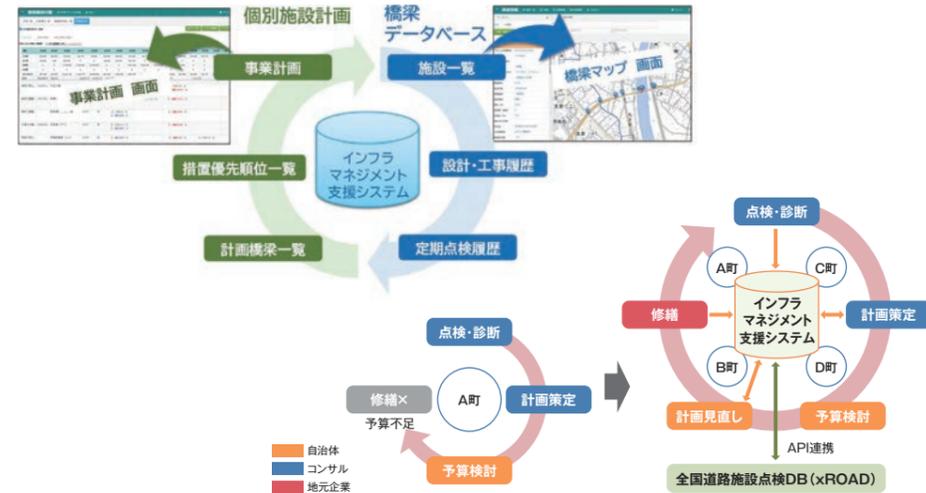
#### 点検・補修・補強・長寿命化計画

山岳トンネル、開削トンネルの点検・診断で毎年50本近い経験を積んでおり、維持管理の点検・診断・措置・記録の各段階で様々な技術、サービスを展開しています。



## アセットマネジメント（保全・維持管理・インフラマネジメント）

人口減少、財源不足、施設の老朽化等の環境変化やデジタル化、防災等の新たなニーズや期待に対して個別施設の維持・保全はもとより、社会資本全体を包括的に維持・保全し、価値を高めるためのノウハウと技術、ツールを提供しています。



### インフラマネジメント（橋梁）

#### 自治体向けECI事業

奈良県原本町で全国初の自治体向けECI方式による橋梁保全事業を試行、有効性を確認しました。この発展に向け、国の補助事業で現在、周辺の町に拡大した群マネモデルを検証中（第7回インフラメンテナンス大賞優秀賞（国土交通省）、2022年度インフラメンテナンスチャレンジ賞（土木学会）受賞）。

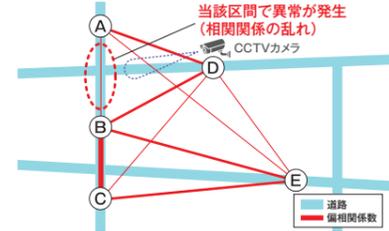


ECI方式（田原本町にて試行導入）

### インフラマネジメント（道路）

#### 道路管理のDX導入支援

国道事務所において、道路管理のDX支援を実施しています。ある国道事務所では、20台のCCTVカメラの静止画像からAI画像認識技術を活用して道路上の交通密度を数値化し、相関関係の乱れから特異事象（積雪スタック、交通事故等）の発生を検知するシステムを構築しました。



### インフラマネジメント（空港）

#### 空港土木施設維持管理事業

南紀白浜空港の土木施設に関してICTを活用した保全技術の確認・検証を行い、安全・安心で効率的なインフラ保全の実現に向けた、総合サービスを提供しています。



### 公共施設マネジメント

#### 学校プールの再編・集約化

老朽化が自治体の大きな問題となっています。総合的視点から現状を分析し、安全・安心はもとより、財政的に持続可能で、かつ子供たちにとって望ましい水泳授業環境の実現に向けて学校プールのあり方を見直し、それぞれの自治体に適した再編・集約プランを立案しています。



### インフラマネジメント支援システム【橋梁版】

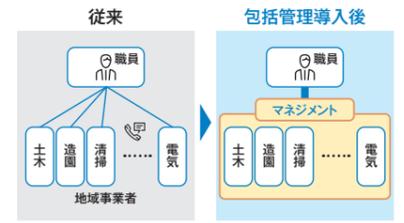
#### 橋梁維持管理マネジメントの支援

インフラマネジメント支援システム【橋梁版】は、xROADとデータ連携（API連携）することにより効率的に個別施設計画を策定できるシステムです。予算の検討や点検、調査設計、修繕工事等の進捗を管理することが可能であり、修繕実施率、健全性割合等をKPIとして設定することで計画の評価・改善ができる仕組みを構築しています。また、インフラマネジメント支援システムには【舗装版】もあり、これらの支援システムを中心とした複数自治体の効率的な管理・運営を支援することも可能です。

### インフラマネジメント（道路）

#### 道路の包括的民間委託導入支援

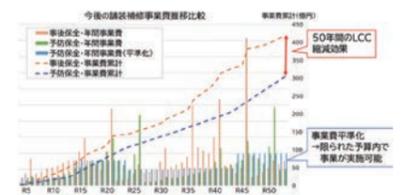
日常的な維持管理業務の現状と課題を整理し、その解決につながる新しい仕組みの構築を支援します。私たちは、これまでに導入検討を行った実績を生かし、地域の特長を踏まえた道路の包括的民間委託の導入支援を行っています。



### 維持管理計画の策定支援

#### 舗装・橋梁の長寿命化計画

自治体は、舗装や橋梁等、膨大な道路構造物を有しています。これらの効率的・効果的な管理に向けて、点検→診断→措置→記録のメンテナンスサイクルを適切に廻すための維持管理計画の策定を支援しています。





# 人・自然・まちの共生に向けて、水インフラを「創る・守る・使う」

～山から海にわたる流域治水に関する行政マネジメントをDXにより支援～

川や海の水辺は、憩いやうるおいを与えるまちのオープンスペースとして貴重な空間です。

一方で、近年の激甚化、頻発化する豪雨や台風、さらに津波により災害を引き起こす、時として危険な空間に変貌します。

そこで、私たちは、水災害から人、自然、まちを守るために、流域治水を基本に水辺空間の平常時の利活用を踏まえたライフサイクルマネジ

メントとエリアマネジメントによる流域行政を支援してまいります。



河川改修整備

熊本市白川・緑の区間改修事業

治水と景観が良質な良好な水辺・緑地空間の創出に向け、河川改修事業として植栽・遊歩道・広場等のデザイン・設計を実施しました(2015年度グッドデザイン賞受賞)。

## 河川・海岸

AI、IoTや空間情報技術を活用することで、治水・利水・環境・利用・維持管理のバランスを図り、流域治水の実現と河川管理行政の効率化・高度化に資する技術を提供しています。



### 親水空間創出

#### 入間川水辺再生

入間川の水辺空間を賑わすため、桜を楽しみながら歩くことができる遊歩道や、左岸・右岸にある各公園をつなぐ流れ橋の設計を行いました。



### 施設配置の検討

BIM/CIMデータとVRを活用した合意形成支援関係者の円滑な合意形成支援に向けて、BIM/CIMデータをVR(仮想体験)に変換し、鳥の目線や人の目線で施設の規模感や細部の構造などを確認できるようにしました。



### 河川護岸整備

#### 小名木川護岸整備事業

水門等の整備によって可能となった小名木川護岸高の切り下げに伴い、住民の憩いの空間整備として江戸の塩の道をイメージした修景護岸の詳細設計を行いました。



### かわまちづくり

#### 地域の活性化に資する水辺空間の形成

「かわ」とそれにつながる「まち」を活性化するため、景観、歴史、文化及び観光基盤などの資源や地域の創意に富んだ知恵を活かし、市町村、住民、民間事業者、河川管理者の連携のもと、地域の顔、そして誇りとなるような空間形成を目指します。



### 3D河川管内図の整備

#### 3D河川管内図をプラットフォームとした事業監理

高規格堤防事業や遊水地事業などの大規模河川事業は、長期の時間を要します。また、多くの地権者をはじめ、事務所内の関係者との調整や合意形成が必要です。そこで、3D管内図をプラットフォームとして、大規模河川事業に伴う調査・計画・設計・施工・維持管理・運用段階における多くの多様な情報を一元的に蓄積し一貫して活用することで事業マネジメントの高度化を実現しています。

### 付替え河道の整備

#### 小友川治水事業

高速道路の橋脚設置に伴い、付替え河道の計画を行いました。また美しい自然環境を守るため、植生に配慮した護岸設計を行いました。



### 親水空間創出

#### 水辺の再生事業

高麗川上流の横手溪谷を対象に、河川管理者や地域住民等が参画する協議会を開催し、合意形成を図りながら、遊歩道やスロープの設計を行いました。



### 災害復旧

#### 千種川水系河川災害復旧助成事業

台風により甚大な被害を受けた千種川(兵庫県)について、良好な景観を保護しつつ災害復旧工の詳細設計を行いました。沿川の農地や利神山との一体化をコンセプトとし、自然石を使用した多自然護岸の設置により、緩やかな川の流れを再現しました。



### 河川管理CIM

#### 河道管理評価システム(衛星画像+AI解析)

河川のエリアマネジメントの効率化、高度化を図るため、AIによる画像解析技術により、河道の経年変化(土砂堆積や樹木繁茂等)を簡便に把握・評価するシステムを開発しました(2023年度インフラメンテナンスチャレンジ賞(土木学会)受賞)。



※現在、国土交通省の直轄管理で活用

### 健全度調査

#### UAVを活用した大規模な堰の健全度調査

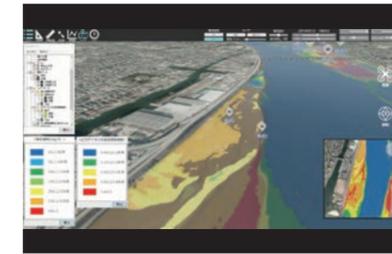
大規模な河口堰の健全度調査のため、通常の調査に加えUAVによる高画質の写真撮影を行い、外観目視、打音調査の結果と併せて変状箇所の分布図を作成しました。



### 3D河川管内図の活用

#### 動植物の生息環境の見える化

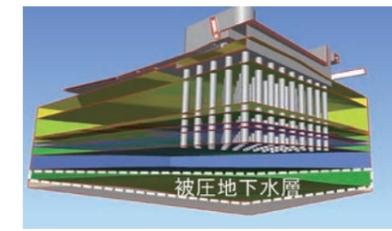
大規模河道掘削による貴重種への影響を把握するため、3D河川管内図を用いて生息環境を見える化し、治水と環境機能のトレードオフの解消や、地域住民や環境保護団体との合意形成に活用しました。



### 河川管理施設整備総合CIM

#### CIMによるライフサイクルマネジメント

3次元データを基本とするCIMの活用により、河川管理施設のライフサイクル「調査～計画～設計～施工～維持管理」の「部分最適」から「全体最適」に変革し、ライフサイクルマネジメントの効率化・高度化を図っています。



### 海岸における災害復旧

#### 長塩谷海岸の長塩谷第1樋門の計画・設計

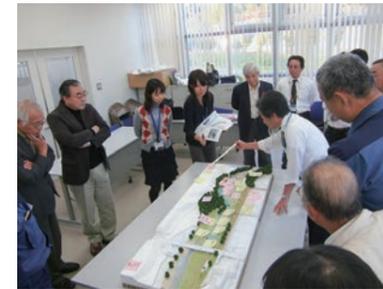
東日本大震災で被災した長塩谷海岸(宮城県石巻市)の復旧にあたり、防潮堤が設置されたことから、背後の沢水の排水のための樋門の計画・設計を行いました。



### 親水空間創出

#### 浅見川水辺再生

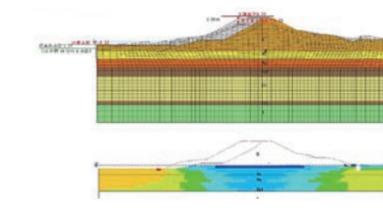
周辺環境に優しく人々の癒しの空間としての整備を目的に、学識経験者や住民と一緒に現地調査や検討会を繰り返しながら、河道設計を行いました。



### 動的耐震解析

#### 芦田川排水機場耐震対策詳細設計

南海トラフ巨大地震を想定し、重要度が高い芦田川排水機場を対象に地震時有効応力解析(FLIP)を実施したうえ、耐震補強工の詳細設計を実施しました。



### 水源地管理

#### 地域振興・地域創生・インバウンド観光の総合化

水源地域の存続を見据えた地域振興を進めるため、ダム及び周辺施設、地域資源や町内施設を活用しつつ、インフラツーリズムを含めた地域の新たな産業づくりを進めています。また水源地域振興を進めるにあたり、3Dダム管内図を制作・活用しています。



## 港湾・漁港

津波や高潮・高波等の自然災害から国・地域を守るため、各種施設の計画・設計から維持管理までのあらゆるプロセスで技術を提供しています。また、その対象も商港、工業港、旅客港、漁港など多岐に渡り、それぞれの特性に応じた技術を提供しています。



### 岸壁設計

#### 横浜港新港ふ頭9号岸壁

横浜港の新港ふ頭9号岸壁は、レベル2地震動に対応する耐震強化岸壁であり、かつ、クルーズ船の着岸も可能となるように改良設計を行いました。施工期間が限られているため、本体工はジャケット式栈橋を、上部工はPC桁を採用して、工期を大幅に短縮可能な設計としました。現在は、ジャケット式栈橋の据え付けが完了し、上部工の据え付けを行っています。

### 栈橋設計

#### リアスハーバー宮古

東日本大震災で被災したリアスハーバー宮古の浮栈橋の災害復旧工事です。栈橋本体は、アルミ製の本体とフロートから構成されるセパレートタイプを採用しました。



### 栈橋設計

#### 明石港浮栈橋設計

兵庫県明石港と淡路島を結ぶ連絡航路のうち、明石港の係留施設として浮栈橋と連絡橋を設計しました。住民の通勤・通学、淡路島への観光に利用されています。



### 陸間設計

#### 石巻港陸間設計

宮城県石巻港において、東日本大震災後に見直された津波の水位に対応して、津波浸水から堤内地を守るための陸間を設計しました。



### 災害復旧

#### 東日本大震災石巻港等港湾復旧事業

東日本大震災直後より、岩手県・宮城県・福島県における港湾・漁港・海岸施設の災害査定業務、復旧設計業務を実施しました。



### 防潮胸壁設計

#### 神戸防潮胸壁設計

プロムナードとして利用され開放的な空間であることを考慮して、「アクリル+コンクリート壁」を採用し、周辺の景観に配慮した防潮胸壁の設計を行いました。



### 栈橋設計

#### 勝本港浮栈橋設計

漁業者の高齢化による漁業活動の効率化と係留施設の老朽化による更新の時期にあわせて、安全な漁船の乗入れが可能となるよう、潮位変動に対応する浮栈橋の設計を行いました。



### 陸間設計

#### 妻良漁港陸間設計

静岡県妻良漁港では、南海トラフ巨大地震津波に備えるため、漁港内に防潮堤と陸間を設計しました。この陸間は景観にも配慮しています。



### 栈橋設計

#### 大浦港栈橋設計

岡山県笠岡市の大浦港において、約3mの大潮位差でも対象船舶(清笠丸)が接岸できる栈橋の設計を行いました。



### 港湾脱炭素化推進計画

#### Carbon Neutral Port (CNP)

CO<sub>2</sub>排出量の推計、計画目標の設定、港湾脱炭素化促進事業の検討などを行い、港湾脱炭素化推進計画を作成しました。産業のエネルギー転換に必要な水素・アンモニア等の供給に必要な環境整備のほか、ブルーカーボンとしてCO<sub>2</sub>を吸収する藻場の環境整備など、SDGsの目標達成に向けた取組みを推進します。



### 防災船着場設計

#### 羽田空港天空橋防災船着場整備

羽田空港直近の天空橋の付帯施設として、バリアフリーに考慮した防災船着場を設計しました。



### 付帯施設設計

#### 横浜港大黒ふ頭T1~T2 バース整備

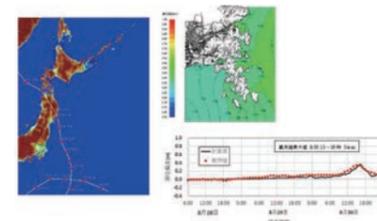
通常はRORO船などの貨物船が着岸できる岸壁において、大型クルーズ船が着岸できるように防舷材等の付帯施設の改良設計を行いました。



### 高潮シミュレーション

#### 石巻港高潮シミュレーション

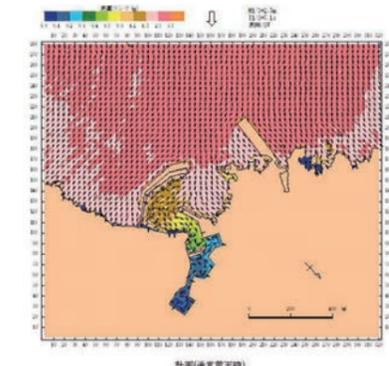
近年多発する大型台風により高潮被害も頻発しています。港湾施設の高潮対策を行うため、高潮による潮位偏差を予測するシミュレーションを行いました。



### 漁港計画

#### 漁港計画

ビジネスモデルによる港内静穏度解析による施設配置検討を行い、今後の施設整備の計画を立案しました。



### 維持管理

#### UAVレーザーによる港湾施設調査

災害時における港湾施設の被害状況の早期把握を目的として、あらかじめ、UAVレーザー測量により平常時の施設位置や背後地形データを取得しておき、将来の災害発生直後に同データを取得することで迅速かつ効率的に変状箇所を特定できます。



## 砂防

砂防事業では、土砂災害から住民の安全を確保するために、周辺環境へ配慮しながらソフト対策やハード対策を実施しています。施設整備では、耐久性や維持管理性、景観・環境性などに配慮した計画・設計を行うとともに、長寿命化等にも取り組んでいます。



航空レーザを基盤とした三次元管内図

### CIMの活用

CIMを活用した砂防施設の計画・設計・施工計画の立案

点群データや画像データを用いて、CIM技術により、砂防施設の調査、計画、設計、施工、管理までのライフサイクルマネジメントを実施しています。また、様々なデータを三次元砂防管内図をプラットフォームとして整備することで、平常時であれば、既存の砂防施設の管理や用地等の状況把握の効率化・高度化に、発災時であれば、発生状況及び規模の把握の効率化・高度化を図ることができます。

### 災害復旧

平成30年西日本豪雨対応

平成30年7月西日本豪雨により発生した土石流対策として、透過型砂防堰堤を計画しました。計画堰堤下流に整備されていた既設構造物を副堤として有効活用しました。



### 災害復旧

シャッター式砂防堰堤の計画・設計

過去の大規模な土砂災害で発生した流出土砂を、積極的に制御することができるシャッター式砂防堰堤の計画・設計を行いました。



### 災害復旧

耕英東地区砂防激甚対策特別緊急事業

平成20年6月の岩手・宮城内陸地震では、大規模な地すべりを引き金として土石流が発生したことを受け、長期的な地盤変位に追従できるブロック式砂防堰堤を計画しました。



### 斜面崩壊対策

銅山川水系砂防事業折戻地区斜面崩壊対策 大規模地すべりにより形成された滑落崖の崩壊を防止するため、法面対策工（法枠、アンカー、鉄筋挿入工）を設計しました。



## 下水道

流域治水や国土強靱化などの国の主要施策を踏まえ、下水道施設の浸水対策、耐震対策、ストックマネジメント計画、設備再構築等の技術を提供しています。また、下水道の計画・調査・設計・施工・維持管理を一括で行う「ウォーターPPP」を全国に先駆けて守谷市（茨城県）で実施しています。

### 守谷市の検討ポイント



### ウォーターPPP

国内初の上下水道関連コンサルタント業務を含む長期拡大包括委託

茨城県守谷市において、株式会社ウォーターエージェンシーを代表企業、グループ会社の株式会社中央設計技術研究所を構成企業とする共同企業体として、「守谷市上下水道施設管理等包括業務委託」に関する業務委託契約を締結しました（令和5年4月1日～令和15年3月31日）。上下水道施設管理に関する包括業務委託の一般的な期間は5年間でしたが、今回の業務委託は10年間と長期間であることが特徴です。また、維持管理情報に基づく効果的な修繕計画、ストックマネジメントやアセットマネジメントなどの計画立案に対してDX技術を用いることで、高度化・効率化を図ります。

### 浸水対策

アイレベルでみる動くハザードマップ

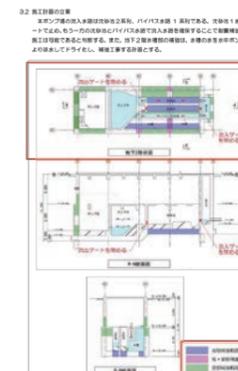
2次元で作成した内水浸水想定区域図と3D都市モデルを組み合わせ、時間の経過とともに拡大する浸水範囲の広がりを視覚化した「アイレベルでみる動くハザードマップ」を作成しました。



### 構造解析

非線形解析を用いた耐震診断

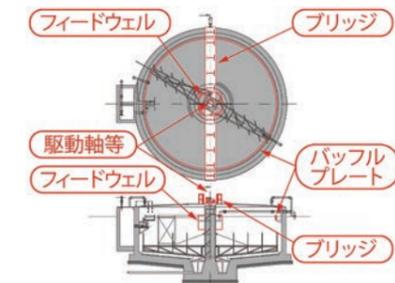
ポンプ場・処理場の効率的な耐震化を図るため、非線形解析により保有耐力の照査を行い、効果的で実現性の高い耐震対策を提案しています。



### 長寿命化

下水処理施設の長寿命化対策設計

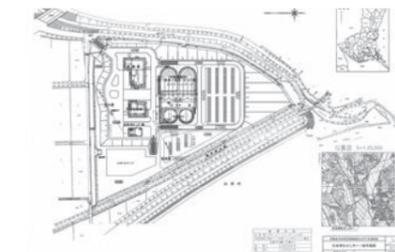
国土交通省の示すインフラ長寿命化計画を背景に、下水処理施設（沈殿池、反応槽、汚泥槽等）について、経済的、効率的な改築・維持管理を考慮した改築設計を実施しています。



### 下水道計画

基本計画・事業計画

平成27年度に改正された新下水道法への対応を図る他、下水道事業の更なる効率化に向けた下水道基本計画・事業計画を策定しています。



### 老朽化調査・診断

管路施設の老朽化調査・診断

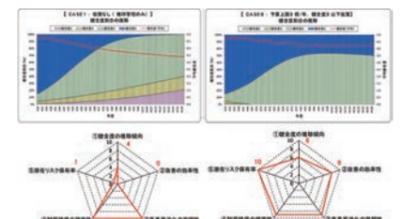
下水道管路施設の老朽化に伴う道路陥没等を未然に防止するため、効果的な詳細調査・診断を実施し、施設の健全度を踏まえた効率的な老朽化対策を提案しています。



### ストックマネジメント計画

ストックマネジメント実施方針

持続的な下水道サービスを確保するため、施設の機能保持に不可欠な維持管理や改築・更新事業の効率的・効果的な実施方針を策定し、下水道事業の最適化を図っています。



# ソフト・ハードの両面で社会・地域を災害 から守る

～DXの活用により、国土・地域の強靱化を実現～

毎年のように発生する豪雨や台風、また希にしか発生しない地震や津波などの様々な自然災害により、人命や財産に甚大な被害をもたらす私たちは、平常時のソフト対策とハード対策による「事前防災」や「防災教育・防災訓練」、発災直前・発災時の「応急対応」、発災後の「復旧・復興」をDXにより途切れることなくこれらの対応を一連で展開し、国土や地域の強靱化に向けた取り組みを進めてまいります。

ています。  
旧・復興)を



## 震災復興

### 陸前高田市における復興支援

平成23年10月から着手した陸前高田市の震災復興事業では、はじめに被災状況や都市特性、さらに住民の意向に応じた「市街地復興パターン」の検討を行い、復興計画を策定しました。引き続き、土地区画整理事業に向けて、津波シミュレーションや避難計画に基づいて、「設計・施工一括発注方式」(OM方式)により、地盤の嵩上げなどまちの復興の基盤となる事業に取り組んでいます。さらに、平成30年度には「技術協力・施工方式」が導入され、これにより河川改修事業にも携わっています。

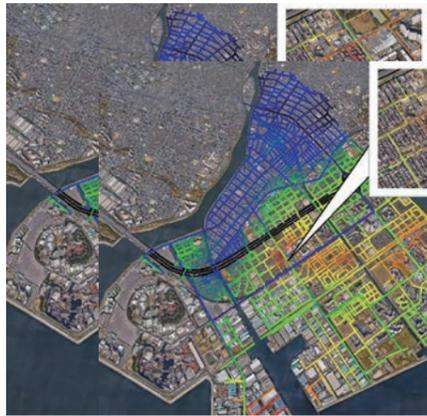
## 道路防災

道路は地震や風水害による災害発生時に救助・救援活動、広域的な緊急物資の輸送を可能とし、避難路や避難場所としても副次的な役割があります。このような道路に対して、地震、風水害等の各種ハザードから道路を守るために道路防災事業を展開しています。

### 従来のハザードマップ



### 道路液状化ハザードマップ



### 防災啓発

#### 道路液状化マップ作成

首都直下地震等の発生が危惧される中、災害時に重要なインフラとなる道路の液状化対策を行う上で、危険箇所を具体化する必要があります。そこで、液状化による道路の被害規模を定量化して被害箇所を示した道路液状化ハザードマップを作成<sup>※</sup>し、被害規模と路線の重要度等に応じた対策の優先度と方針の整理を検討しました。

※被害想定手法と道路液状化ハザードマップの作成方法は、東京大学生産技術研究所清田研究室との共同研究による。

### リスク評価

#### 緊急輸送路におけるリスク評価の実施

道路啓開における留意点を把握するために、緊急輸送路の各路線を対象に、道路幅員や液状化などの閉塞要因を重ね合わせ、リスク評価を行いました。



### 啓開計画

#### 道路啓開計画の策定

優先して啓開すべきルートに対し、各種ハザードに対する道路の被災リスクを検討するとともに、発災直後から時系列に沿った道路啓開マニュアルの作成を行いました。



### 教育・訓練

#### 道路啓開訓練の実施

首都直下地震を想定した道路啓開の実動訓練として、瓦礫除去訓練の企画や運営を行いました。



### 防災拠点整備

#### 道の駅等の防災拠点化

道の駅やSA・PAの防災拠点化に向けて、可能性調査や各種設備（情報発信、太陽光発電など）の計画、設計を行いました。また、指定管理者制度を利用した道の駅の管理や利用者増に向けた経営支援も行っています。



### 事業推進PPP

#### 「事業推進PPP」による三陸沿岸道路建設の発注者支援

三陸沿岸道路の新規区間の早期開通のため、「事業推進PPP」手法が採用されていますが、当社も5社JVにより普代久慈工区を担当しています。

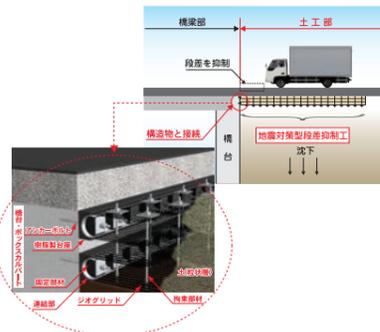


三陸沿岸道路10の業務工区(⑩が弊社担当工区)

### 地震被害軽減工法の開発

#### 地震対策型段差抑制工法の開発

中央大学研究開発機構、NIPPO、前田工織、当社の4社は、橋台背面や土被りの浅いボックスカルバートにも適用できる地震対策型段差抑制工法を共同開発しました。



## 水防災

洪水や高潮、津波等の風水害に対して、施設だけでは国民の生命や財産を守り切れない「流域治水」の考えに立ち、社会全体で洪水や高潮、津波等に備えるためのソフト対策及びハード対策による水防災事業を展開しています。



### 津波避難施設

#### 津波避難シェルターの設計

津波避難シェルターは、津波により一時的に水没しても、避難者の安全性を保てる密閉性の高い施設と定義づけています。当社は、この国内初となる津波避難シェルターの実現性を検討する技術検討業務を受託し、空気や電気、通信等の確保を考慮し「半地下の箱」「地上のドーム型」「崖地の横穴型」の3つの基本形を概略設計した後、「崖地の横穴型」について、導入計画、構造設計、運用を含めた提案を実施、平成28年8月に落成しました。

### 津波シミュレーション

#### 津波シミュレーションの実施

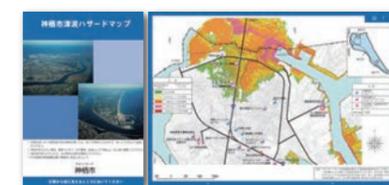
津波シミュレーションにより、沿岸地域での津波高や流速、陸上での浸水深を詳細に予測しました。また、河川遡上のシミュレーションの結果をもとに、河川堤防の嵩上げによる津波対策工の検討を行いました。



### ハザードマップ

#### 津波ハザードマップや防災手引きの策定

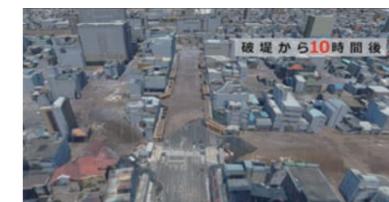
住民の防災意識向上を高めるため、津波被害を想定したハザードマップや、防災手引きを策定しました。



### 水災害に対するスマート防災

#### 動くハザードマップの作成支援

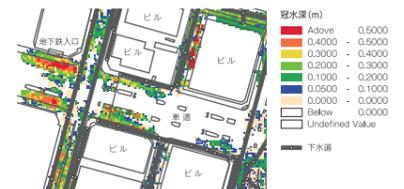
水害の自分事化を図るため、3D都市モデル(ProjectPLATEAU)に、降雨規模に応じた内水・外水氾濫等のシミュレーションデータを重量させ、時間軸をもったハザードマップの作成支援を行いました(第10回ジャパン・レジリエンス・アワード最優秀賞受賞)。



### リスク評価

#### 氾濫シミュレーションによる地下街の浸水危険度評価

都市部での集中豪雨を対象に、地表面の流水と下水道の氾濫を考慮したシミュレーションを実施し、地下街の浸水危険度を評価しました。



### 水災害に対するスマート防災

#### DXマネジメントシステム

ワンコイン浸水センサから得られた浸水情報を三次元管内図に重量し、浸水範囲だけではなく、道路等の浸水深を把握し、これらの情報から通行可能道路を即時に表示するシステムを構築しました(第11回ジャパン・レジリエンス・アワードグランプリ受賞)。



## 都市・地域防災

地震や風水害から国民の生命や財産を守るために、安全・安心な都市・まちの実現に向けた「公助」の強化に加えて、「共助」や「自助」による防災行動を促進するための防災教育や防災訓練等の都市・地域防災事業を展開しています。



### 避難行動計画

**土砂災害に備えた避難行動計画の策定**  
平成25年10月の台風26号による土砂災害により、多数の犠牲者を出した大島町において、災害直後に土砂災害ハザードマップ等の住民配布資料と防災行政の運用に必要な避難行動計画を作成しました。大島町の高齢化率は約40%と非常に高いため、住民配布資料では文字の大きさや色使い等に配慮しました。また、要配慮者の避難所での生活についても被災後の課題として取り上げて避難行動計画に反映しました(第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優良賞受賞)。

### 教育・訓練

水害に備えたマイ・タイムラインの作成支援  
風水害に備え、住民の自助力を強化するため、東京マイ・タイムラインの作成支援を行いました。本資料を用いた町会へのワークショップ支援も行っています。



### 教育・訓練

**要配慮者利用施設を対象とした避難訓練の実施**  
気象会社と協働して、土砂災害(特別)警戒区域と気象情報を重畳したシステムを開発しました。また、このシステムを活用した情報伝達訓練を行ったうえで、要配慮者利用施設の利用者が、安全な場所へ迅速に避難できるよう、訓練支援を行いました(第5回ジャパン・レジリエンス・アワード最優秀レジリエンス賞、第6回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞受賞)。

### 国土強靭化地域計画や地域防災計画等各種防災計画・マニュアル等の策定・改定

行政の災害対応能力向上のため、近年の災害を踏まえた国土強靭化地域計画や地域防災計画、業務継続計画、受援・応援計画、避難所運営マニュアルなどの策定・改定等を行いました。



### リスクコミュニケーション

**「動くハザードマップ」による強靭化訓練の実施**  
津波シミュレーション結果から3Dアイランドマップに津波による浸水被害の時間変化を見える化し、「想定外」をなくすための全国初の国土強靭化地域計画に基づく訓練を実施しました(第9回ジャパン・レジリエンス・アワード最優秀賞受賞)。



### リスクコミュニケーション

**強靭化推進に伴う住民啓発等の作成支援**  
公助として強靭化推進に資する事業を紹介するとともに、住民や事業者等に日頃の備え等を示すことによって自助・共助の機運醸成を図ることを目的に、漫画なども活用したハンドブックや動画の作成支援を行いました。



### 教育・訓練

#### 社内勉強会の実施

東京都立大学 中林一樹名誉教授をお招きし、当社全社員を対象にした国土強靭化と防災まちづくりに関する社内勉強会を実施しました。



### 教育・訓練

#### 災害対応能力向上のための防災訓練の運営補助

災害発生時の緊急活動を迅速に行うこと、また改定した地域防災計画の検証のため、防災訓練の企画と運営補助を行いました。



### 教育・訓練

#### 行政向け情報伝達訓練の実施

土砂災害を想定し、気象情報を受けて組織内でどのような情報伝達が必要になるか、基礎自治体の管理職以上の職員を対象とした訓練を実施しました。



### リスク分析

#### 津波防災地域づくりに向けた検討

津波発生時の避難シミュレーションを実施し、避難施設の最適配置や避難路の整備・拡幅の検討を行うとともに、避難行動ルールの策定や住民啓発のための資料作成を行いました。



地震に伴う津波の到達により、2つの出口に海水浴客が集中し、混雑している状況が分かります。

### リスクコミュニケーション

#### 火災延焼シミュレーションの実施

木造密集地域を対象に、発火点や風向き等を設定したうえ、火災延焼シミュレーションを実施しました。また、延焼遮断帯となる道路整備の必要性を検証しました。



### 防災行政支援

#### 生成AIを活用した災害対応支援システム

災害時における自治体や関係機関の情報分析や意思決定の効率化を支援するため、「生成AIを活用した災害対応支援システム」を構築しました。また、自治体の災害対策本部訓練で導入・効果検証を実施しました。



### 防災行政支援

#### 防災DXによる災害時の防災行政マネジメントの支援検証

台風来襲時、当社社員を災害対策本部や避難所に派遣し、防災行政マネジメントシステムを活用した防災行政マネジメントの支援、検証を行いました(第8回ジャパン・レジリエンス・アワード最優秀賞受賞)。



### 教育・訓練

#### 防災シンポジウムの企画・運営

日本危機管理防災学会主催、当社事務局の防災シンポジウムを、12年連続で実施しています。2025年は、「巨大複合災害への備え～被災後防災の必要性～」をテーマに、学識者、当社取締役が登壇のもと開催しました(第7回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞受賞)。



# 自由な移動、にぎわい・活力、安全・安心な社会の実現

～政策立案と進化する高度技術を通じて交通まちづくりを実践～

社会・地域に実装する交通政策を総合的に立案し、進化する高度技術を駆使して実現を図り、人・モノの移動を支え、安全・安心かつ賑わい・活力を生み出す「交通まちづくり」の推進、地域の課題解決および地域価値の向上の取り組みを進めています。



交通結節点整備検討  
ハスタ新宿

新宿駅南口周辺・国道20号(甲州街道)の交通状況の調査及び問題・課題の把握を行った上で、交通結節点施設の主要機能や主要施設の配置計画について検討を行いました。

## 交通技術

交通ビッグデータ、AI、IoTなどのデジタルの活用技術、交通安全に関する対策検討技術、交通シミュレーションによる渋滞対策検討技術など、高度で多様な交通技術を活用して、交通事故対策、交通渋滞対策の検討を行い、安全・円滑・快適な道路交通の実現に向けた取り組みを進めています。



自動運転トラック隊列走行モデルを組み込んだ交通流シミュレーションモデル



一般道路の交差点の車線運用改善策による交通挙動を再現

### 交通ビッグデータの活用

#### リアルタイムモニタリング・アラートシステムの開発

ビッグデータ（プローブ車両、気象、SNS（X（旧:Twitter））、画像データ等）をリアルタイムに収集・処理・可視化するシステムの構築に取り組んでいます。



膨大なデータをリアルタイムに処理し、時空間に連続的な交通被災状況と危険性アラートを可視化

### 交通ビッグデータの活用

#### AIによる事故リスク予測モデルの構築

交通事故の発生の原因となる、気象条件、交通条件等のデータと、交通事故データを用いてAIにより学習させることにより、精度の高い事故リスクの予測モデルを構築しました。



### 交通円滑化システム開発

#### 自発光式速度早期回復システムの導入支援

高速道路においてサグやトンネル区間などボトルネックを起因とする速度低下を抑制させるため、LEDライトを進行方向に点灯させる渋滞対策システムの開発・導入支援を行いました。



### 交通円滑化システム開発

#### 可変チャネルレーゼーションのデバイス開発と検証

首都高のジャンクション部において、より安全・安心な合流を支援するため、変動する交通需要に対応し、動的に区画線を変更する可変チャネルレーゼーションシステム（照射式矢印）のデバイスの開発と検証を行いました。



### 自動運転車両も考慮した交通運用検討交通シミュレーション

高速道路の織込区間や合流部、サグ部等では、特有の交通状況、道路構造、車線運用、交通制御等に起因した渋滞が発生します。また、今後は、自動運転車両やトラックの隊列走行等の導入により、新たな交通課題への対応等が求められています。このため、自社開発した高速道路の交通シミュレーションソフト（FAMS: Future advanced microsimulator）を活用して、車両一台一台の交通挙動及び自動運転車両の挙動を再現することで、交通渋滞の発生要因や自動運転車両のトラック隊列走行等を導入したときの課題を的確に捉え、合流部の道路構造など適切な対応策を提案しています。

### 3D都市モデルの活用

#### サイバー空間を活用した交通まちづくりの検討

3D都市モデルや3D点群データを活用したデータ連携基盤を構築し、サイバー空間での解析・検証、空間検討を通じて、移動サービスの向上、空間づくりへ反映し、持続可能な交通まちづくりを推進しています。

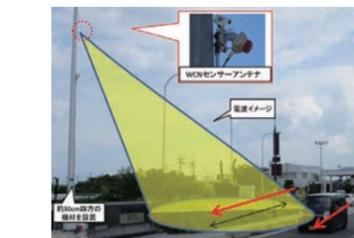


サイバー空間で交通状況の解析・検証

### ETC通信を用いた調査手法の開発

#### 新たな調査手法を用いた交通流動把握

ETC車載器が持つWCN（ワイヤレスコールナンバー）を取得することで、多車線でも、既存の調査（ナンバープレート調査等）よりも容易かつ低コストに調査でき、取得したWCNデータを活用して、旅行時間、交通流動、滞在時間など、さまざまな交通実態の分析、検討を行っています。



（滋賀県琵琶湖大橋の例）

### 3D点群データを活用した交通安全対策検討

VRとDSによるサーバー空間での交通安全対策検討  
再現したサイバー空間を構築し、ドライビングシミュレータ（DS）を活用したバーチャルリアリティ（VR）実験による交通安全対策の評価を行い、よりの確で実効的な対策立案に取り組んでいます（令和5年度みちのくインフラDX奨励賞【工事・業務部門（東北地方整備局推薦）】受賞）。



みちのくインフラDX 対策前（左）と対策後（右）

### AI技術の活用

#### AIカメラを用いた人流解析に基づく道路・広場空間形成等の計画

AIカメラを駆使して人の動線や滞留状況を把握することで、動線が錯綜しない施設配置、適正な荷捌きスペースの計画等、居心地がよく歩きたくなる街路空間や広場空間の構築を実施しています。



（提供：国土交通省 静岡国道事務所）

### 生活道路安全対策へのAI技術の活用

#### AIカメラと電光掲示板を連動した安全対策

生活道路を走行する車両の速度をAIカメラで判別し、規制速度（30km/h）を超過する車両に対して、路側に設置したLED電光掲示板で30km/h超過を警告し、速度超過したドライバーの安全意識に働きかけて速度抑制を促すような安全対策を行っています。



AIカメラとLED電光掲示板を連動させた注意喚起システムの概要

### 新たな速度低下抑制技術の導入

トンネル内へ水平ラインの導入  
高速道路トンネル内の上り勾配による、ドライバーの無意識な減速を防止するために、トンネル内に「水平ライン」を設置して、上り勾配による速度低下を抑制し、交通渋滞を改善しました。



### ドライビングシミュレータの活用

#### 色による案内誘導（大橋JCT）

複雑な道路構造において、ドライバーが安心して安全に走行できるように、ドライビングシミュレータを活用し、色による効果的な案内誘導の手法を評価・検討しました。



### 2車線高速道路の交通事故対策評価

#### 高速道路暫定2車線区間のレーンディバイダー

全国の高速道路暫定2車線区間の正面衝突事故を防止するために試行設置されているレーンディバイダー（ワイヤロープ、センターポール、センターパイプ）の評価を行いました。



### AI技術を活用した交通事故分析

#### AI技術を活用した危険事象分析

AI技術による危険事象分析とドライブレコーダーで捉えたドライバーの視認性分析を組み合わせ、効率的に事故発生メカニズムの全容を解明し、実効性の高い対策を立案しました（「令和4年度インフラDX大賞（工事・業務部門）」優秀賞（国土交通省）受賞）。



### 新たな道路構造（ラウンドアバウト）

#### 山陰道朝山・大田道路の大田朝山ICラウンドアバウト

島根県の山陰道朝山・大田道路の大田朝山ICへのラウンドアバウト導入にあたって、ビデオ撮影、走行調査などによる各種データから、安全性、円滑性を定量的に評価し、我が国で初の幾何構造となるラウンドアバウトを計画・設計しました。



（提供：国土交通省 松江国道事務所）

### 新たな道路構造（二段階横断施設）

#### 単路部の食い違い二段階横断施設の導入評価

全国初となる単路部の食い違い二段階横断施設の導入検討を行うとともに、実施した各種調査データをもとに、横断歩行者、自転車の安全性と円滑性の向上効果を定量的に評価しました。



（宮崎県川南町）

交通政策

今後導入される自動運転サービスや道路空間を活用した賑わい創出の社会実験、低炭素型移動システムや次世代自動車の導入検討による地域交通のモビリティ確保、車・自転車・歩行者の安全で快適な道路空間の構築など、安心して快適に暮らせるまちづくりの実現に取り組んでいます。



賑わい創出の社会実験

オープンカフェ等の歩行者の憩いの場の創出  
日本有数の商業・サービス業の集積地である新宿通りにおいて、荷さばき車両等の駐車適正化と集約化に合わせた仮設歩道「SHINJUKU STREET SEATS」を設置することで、賑わいと歩行者優先区間の創出に取り組みました。

生活道路の安全対策

地域住民と協働によるハンプ等の安全対策  
生活道路の安全を確保するため、地域住民とワークショップ等を通じて速度抑制対策を検討し、高齢者や子供たちとハンプ等の物理的デバイスを協働で設置する社会実験を実施しました。



案内誘導計画

利用者に分かりやすい案内誘導計画の検討  
案内標識や路面標示を工夫(カラーにより、方面別に走行する車線を区分)して利用者に対する誘導効果を高めるため、利用者により分かりやすい案内誘導を計画しました。



中山間地域でのデマンド型乗合い配車サービス AI最適運行・自動配車サービス実証実験

中山間地域での高齢者等の移動手段を確保・維持するため、タクシーを効率的に運行させるようにAI技術を用いた予約・配車システムを導入する実証実験を実施しました。



伊那市、株式会社未来シェアと共同で「AI最適運行・自動配車サービス(ドアツードア乗合タクシー)」実証実験を実施

スマートICによる利便性向上

遠州森町スマートIC整備による利便性向上  
新東名高速道路遠州森町PAにおけるスマートICの導入に伴い、スマートIC及び周辺町道の計画・設計、周辺道路の案内検討を実施しました。



低炭素型移動支援システム導入計画 豊田市低炭素型移動システムの導入計画

ITS技術等を活用し、人と環境にやさしい低炭素型社会を、生活に根差した形で実現する「豊田市交通まちづくり行動計画」を策定しました。



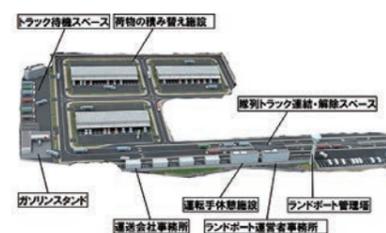
魅力的でまちの賑わいを生む交通結節点事業

3D都市モデル「PLATEAU」を用いた交通結節点計画  
3D都市モデル「PLATEAU」に、交通結節点施設のBIMおよび人と車両のシミュレーションを組合せた仕組みを構築しました。周辺建物も含めて立体的・階層的にシミュレーションをすることで、賑わいがあり使いやすい広場空間計画、交通処理計画に反映しています。



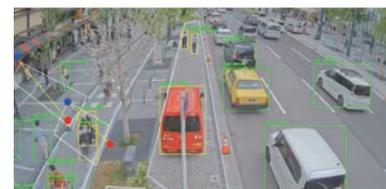
物流拠点整備検討

トラック隊列走行に対応した広域物流拠点検討  
トラック隊列走行に対応した高速道路直結型の新たな物流拠点について、最新の技術動向や需要の調査を行い、広域物流拠点整備のあり方を検討しました。



都市構造のリノベーションを推進する道路空間再編

御堂筋の人中心のストリートへの空間再編  
御堂筋の側道を活用空間再編(側道歩行者空間化)を行うため、AI技術を活用して歩道空間の利用状況の画像解析や可視化、駐停車車両の遠隔監視の検証を行いながら、人と多様なモビリティの共存空間づくりに取り組んでいます。



Intelligence Design(株)のエッジAIカメラを使ったAI画像解析サービス「IDEA(アイデア)」による遠隔監視との連携

道路空間を活用したモーダルコネク트의強化 道路上でのカーシェアリング社会実験

“シェアリングエコノミー”拡大への対応、環境負荷軽減、都市空間の有効活用等を背景に、公共交通からの乗換え利便性の高い道路上にカーシェアステーションを設置することで、モーダルコネクつ機能を強化を図る社会実験を支援しています。



官民連携による観光地の渋滞対策

南紀白浜で2度の花火大会の渋滞緩和に貢献  
白浜町、(株)南紀白浜エアポートと協働しながら、「渋滞ゼロに向けた大作戦」と称して、海水浴・花火シーズンにおける白浜町と周辺地域の交通渋滞緩和に取り組む、大幅な渋滞緩和を実現しました。



新たな移動手段に対応した道路空間形成事業

賑わい空間の形成と グリーンズローモビリティ導入の社会実験  
電動カート、電動車椅子、電動キックボード等の電動モビリティを活用し、移動のハードルを取り除き、買物公園エリア全体の移動利便性向上と賑わいの広がり・回遊を高める取り組みを行っています。



モビリティ・ハブの形成事業

モビリティを活かした団地コミュニティ拠点の機能拡大による連携創出  
多様な連携による都市機能の再編成・サステナブルなまちづくりの実現を目指し、パーソナルモビリティの活用可能性を検証する社会実験に取り組んでいます。



自動運転サービス実証実験

自動運転技術を活用した持続可能な移動サービスの展開  
高齢者の移動手段の確保、渋滞・駐車等の都市交通課題、都市の形成とまちの活性化などを踏まえ、公共交通の充実・利用促進と負荷少ない効率的な移動手段の提供を目指し、中山間地域、市街地での自動運転サービスの社会実験を実現するための実証実験の企画・実施・評価を行っています。



(長野県塩尻市)



(山梨県甲府市)



(岐阜県岐阜市)

オンデマンド医療MaaSの実証事業

スマートシティ推進関連事業  
高齢化・医療過疎化が進行しつつある地域の医療課題解決を目指して、MONET Technologiesが提供するさまざまな目的に利用可能なマルチタスク車両を活用した、「オンライン診療・オンライン受診勧奨、保健指導」に取り組んでいます。



医療MaaS マルチタスク車両

# 全国どこでも誰もが快適に暮らせる社会の実現

～DXの推進と多様な連携の促進による地域マネジメントの実践～

全国各地の都市・地域では、人口減少・高齢化が進んでおり、関係人口の増加や産業振興・雇用の創出等、地域課題の解決が求められています。また、地球規模での気候変動が深刻化する中、環境保全・脱炭素化に向けた取組を加速化する必要があります。

私たちは、「全国どこでも誰もが快適に暮らせる社会」の実現に向け、DXの推進と多様な連携の促進による地域マネジメントを実践してま

ます。

います。



環境整備

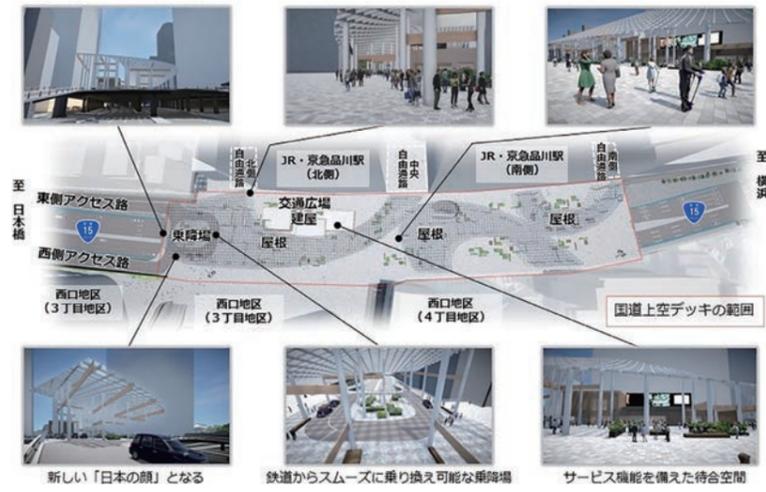
長崎港松が枝国際観光船ふ頭

国際ゲートウェイ機能の強化と観光振興に資する上質な景観形成や回遊性向上を担う公園としての次世代ターミナルの計画、設計、デザイン監理を行いました。建築と公園が一体となり長崎の地域資源を引き立てるデザインとして評価されています(2011年度グッドデザイン賞、土木学会デザイン賞2013優秀賞受賞)。

写真:長崎県提供

都市政策・都市開発・建築

都市全体のあり方から、地域マネジメントまで一貫して携わることで地域のニーズに合った美しく快適なまちづくりを進めています。また、当社の強みである交通技術や拠点づくりをベースに、政策提案、経済分析を加え、よりよい社会を実現する仕組みを支援します。



出典:関東地整東京国道事務所HP(当社実績)  
https://www.ktr.mlit.go.jp/toukoku/toukoku00340.html

大規模ターミナル駅周辺整備の計画  
品川駅西口駅前広場整備プロジェクト

品川駅西口に、多様なモビリティへのシームレスな乗換を可能とする人が主役の都市交通ターミナルを目指し、国道15号上空を活用した道・駅・まちをつなぐ駅前広場の整備を進めています。プロジェクトの企画から事業化に向けた支援を継続的に行い、令和5年6月には、「デザインコンセプト」として、今後の整備の方向性が示されました。引き続き、その実現に向けて、周辺開発とも連携したデザインや交通計画、官民連携による事業手法等、多様な課題に取り組んでいます。



ウォーカブルなまちづくり

前橋馬場川通りアーバンデザインプロジェクト

国内初のまちづくりSIBやMINTO機構共助推進型ファンドを活用した公共空間の民間整備によるウォーカブル事業です。沿道敷地の一部改修も含めて歩道をフラット化し、舗装を前橋にゆかりのあるレンガ舗装に変更しました。また、準用河川の馬場川に親しみやすい川沿いにデッキベンチ、柵の機能を持つコーヒーテーブル等を整備し、道路空間・馬場川・公園・沿道敷地を一体の空間として整備しました(『新建築』2024.7月号掲載、日本空間デザイン賞2024[KUKAN OF THE YEAR]「公共施設・コミュニティ部門」金賞、「サステナブル空間賞」トリプル受賞、2024年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」受賞、令和6年度土地活用モデル大賞「都市みらい推進機構理事長賞」他受賞)。

ウォーカブルなまちづくり

旭川・買物公園通りでのエリアプラットフォーム構築

日本初の歩行者専用道路である旭川・買物公園。開設から50年が経ち、いつもある1kmの歩くだけの「みち」で、「毎日わたらしくいられる」の実現に向け、同じ想いを持つ、まちの人とともに、未来ビジョンの作成とエリアプラットフォームを立ち上げ、地域共創で進める新たなまちづくり(社会実験の実施やエリアマネジメントの推進等)をコーディネートしています(2025年度グッドデザイン賞「カテゴリ:地域の取り組み・活動」受賞)。



駅周辺まちづくりの推進

村岡新駅周辺地区まちづくり推進支援

藤沢市の村岡新駅設置を契機としたまちづくりにおいて、まちづくり方針やコンセプト等の上位方針を具体化するための地区計画等の都市空間誘導手法や、まちびらき後のマネジメント手法の検討、まちづくりの機運醸成に向けた市民イベントの企画・運営・動画による情報発信など、ハード・ソフトの両面からまちづくりの進捗を支援しています。



団地地域活性化方策検討

多摩ニュータウン諏訪・永山地域活性化

50年を経過した諏訪・永山団地において、持続可能な団地施設等の活用や地域社会の形成を目指し、地域関係者等と連携を図り、団地施設や屋外空間を活用した新たな地域の居場所づくりに取り組んでいます。活用にあたっては、住民の方に団地内にある様々な空間(空き室や公園、小学校の解体工事で建てられている鋼板塀等)に新たな価値を見出してもらえよう、コンテンツを企画し、実証実験として実施しました。



大規模ターミナル駅前広場の整備

横浜駅西口駅前広場

歩きやすい歩行空間や待合せ空間の確保等、横浜の玄関口に相応しい駅前広場整備事業に関し、当社は横浜駅中央西口及びきた西口の一体的な整備計画～設計を一貫して行いました。



地下歩道の賑わい創出

藤沢駅北口地下歩道・地下広場

既存構造躯体を活かしながら地下広場・地下通路全体を明るい空間にし、バリアフリー等への配慮を行うとともに、にぎわいや交流、憩いを育める空間を創出しました。地下広場は、人の動作と映像が連動するインタラクティブ映像などにより、多様な活動やイベント開催をできるようにしています。



鉄道施設のデザイン・設計・監理

札幌市路面電車狸小路停留場

札幌市路面電車ループ化(都心線)開業に合わせ、都心部に新たに設置した停車場です。札幌の新しい顔の創出、駅前通りの一体活用による賑わいづくり、都心生活を充足する使いやすさ、まちづくりへの展開を図ることをコンセプトにデザインしました(2017年グッドデザイン賞受賞)。

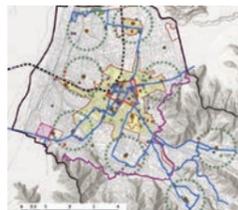


Photo by momokojapan

コンパクトシティ

立地適正化計画の作成

「コンパクトシティ」化に向けて、GISや3D都市モデルを活用した都市構造評価分析・災害リスク分析、合意形成、政策立案・KPI検討など、効率的で持続可能な都市運営を目指すための立地適正化計画の策定支援をしています。



拠点開発計画/PRE利活用計画

「道の駅」基本構想・計画策定支援

「道の駅」をはじめとした地域の拠点づくりに向けた基本構想や基本計画の策定を支援しています。また、遊休・未利用あるいは施設が老朽化したPRE(Public Real Estate:公的不動産)の利活用・リノベーションの計画づくりを支援しています。



官民連携事業化支援

広島県新動物愛護センター

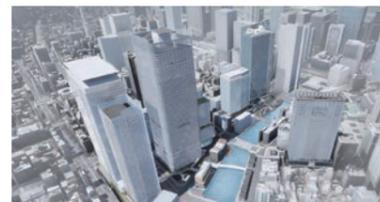
従来の「殺処分するための施設」から「生かすための施設」に転換し、犬猫の譲渡を進める動物愛護センターをPFI手法により全国2番目に整備～運営まで一括して実施した事業です。譲渡を促進するだけでなく、「命のことを学べる施設」や「人が集まる施設」といった地域の魅力を高める施設となりました。



水辺再生と都市再開発

首都高地下化に伴う日本橋地区の景観検討

首都高道路の地下化や周辺街区の再開発事業が進む中央区日本橋川沿いエリアにおいて、国の都市空間情報デジタル基盤構築支援事業補助金を活用し、PLATEAU都市モデルを用いたユースケース開発を行いました。2040年竣工までの都市空間の変遷を3Dで段階的に表現し、住民代表や関係行政機関などの関係者間での効果的な情報共有を図り、魅力的で一体的な水辺空間の整備推進に寄与しています。



出典:中央区HP掲載資料(当社実績)

ウォーターフロントエリアのまちづくり

那覇港みなとまちづくりマスタープラン

沖縄県全体の社会経済活動を支える那覇港は、物流の中心であると共に都心に隣接したウォーターフロントエリアとしての活性化や沖繩らしい海の景観を活かした交流・賑わいのみなとまちの実現に取り組んでいます。マスタープランでは、関係自治体、地域住民や企業が協働することでウォーターフロントと都心部の一体的なまちづくりを実現するための方針や取組をとりまとめました。



交通結節点の計画・設計

関内駅北口広場

横浜市庁舎の移転に伴い、馬車道・伊勢佐木方面への玄関口として大屋根のある駅前広場を計画・設計しました。地元の建築家やまちづくり協議会、JRとの協働により実現したプロジェクトです(『新建築』2022.6月号掲載)。



## 景観・ランドスケープ／歴史・文化

地域の自然環境、歴史文化を大切に守り、育て、次世代へ引き継ぐため、景観まちづくりをはじめ、構造物のデザインやランドスケープデザインを行っています。また、後世に歴史をつなぐため、土木遺産の保存と利活用の取り組みも行っていきます。



### 公園のデザイン・設計・管理

#### 富士見公園再編整備事業

川崎市で最初の都市公園であり、緑地や広場が少なく施設老朽化も進んだことから、PFIとPark-PFIの複合事業として再編整備し、全国都市緑化かわさきフェアにてオープンした。インクルーシブデザイン、水と緑を活かして雨水流出抑制と暑熱対策、木造化と再エネ・水蓄熱利用による脱炭素化等、「多様な施設で多様な人が交わり、みんなが成長できる公園」をコンセプトに整備した。



### インクルーシブな遊び場づくり

#### 大井坂下公園

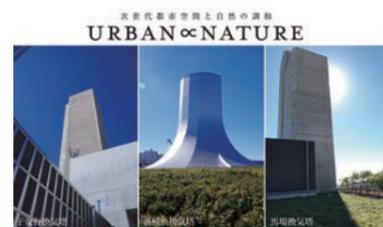
インクルーシブな遊び場づくりに関する子どもたちのアイデアを取り入れた公園第1号として、基本構想段階では、区内の小学生を対象としたワークショップ、設計段階では公園利用者に対するヒアリングを行う等、実際の公園利用者のアイデアや声を公園整備に反映し、完成しました(第40回都市公園等コンクール審査員会特別賞受賞)。



### 路線と換気塔のデザイン

#### 首都高横浜北線・換気塔

高速神奈川7号横浜北線路線全体のコンセプト策定、景観検討からスタートし、新横浜換気塔・馬場換気塔・子安台換気塔については「環境創出型換気塔」としてデザインしました(2017年グッドデザイン賞、土木学会デザイン賞2018最優秀賞受賞)。



### 都市再生のデザイン

#### 渋谷駅周辺整備事業

渋谷駅周辺地区大改造の一躍を担う国道246号渋谷駅東口～西口区間の道路空間再整備に伴い、デッキ、地下歩道、昇降施設等、道路空間全体のデザインを行いました(令和7年度全建賞受賞)。



### ランドスケープデザイン

#### 川原川・川原川公園

東日本大震災で甚大な被害を被った陸前高田市高田地区は、宅地地盤全体を嵩上げする土地利用計画が策定され、川原川公園が組み込まれました。陸前高田の自然・文化・記憶の継承の軸として、川原川と川沿いに配置された公園を一体的な空間としてデザインし、嵩上げされた街とつなげたプロジェクトです。当社は、プロジェクト初期から公園設計・橋梁設計を行いました(2022年土木デザイン賞最優秀賞受賞)。

### ランドスケープデザイン

#### 長久手市公園西駅1号公園

愛・地球博記念公園に隣接し、市の中心を流れる香流川に寄り添うような形で整備された公園です。地下貯留式の調整池の上部であり植生基盤の確保が難しい中で、可能な限り緑豊かに、また香流川の緩傾斜護岸を活かした親水空間を設けることで自然を身近に感じられるデザインとしました(土木学会デザイン賞2023年奨励賞受賞)。



### 橋梁の景観デザイン・設計

#### 潮風橋

潮風公園は東京都臨海部・臨海副都心南西部に位置する海浜公園で、本橋は公園の南北をつないでいます。臨海都心の風景を眺める視点場としての役割と、隣接する施設とのデザインの連続性を確保しつつ、海への眺望、ユニバーサルデザインなどに配慮したデザイン・設計を行いました。



### 鉄道遺産の再生

#### 旧晴海鉄道橋(晴海橋りょう)の遊歩道化

本橋は、国内初の鉄道用鋼ローゼ橋と、鉄道用PC橋として初めての3径間連続桁を有する技術的価値の高い鉄道遺構である。廃線後35年、完成から約70年を経過したこの橋を、既存構造の改変を極力避け、建設当時の姿を保全しつつ、補修・耐震化設計及び遊歩道化設計と景観デザインを実施しました。



### 歴史展示館のリニューアル

#### 宮城県慶長使節船ミュージアム

伊達政宗がスペイン及びローマ教皇のもとに派遣した外交使節の歴史や、太平洋を往復したガレオン船「サン・ファン・パウティスタ」号の航跡や木造復元船等を紹介する博物館です。展示の核であった復元船の維持管理の困難化、東日本大震災による被災による設備や展示品の更新に伴い後継船のあり方や展示内容の改修基本計画、展示及び施設設計を行いました。



### 国指定天然記念物の保存・利活用

#### 養老川流域田淵の地磁気逆転地層(チバニアン)

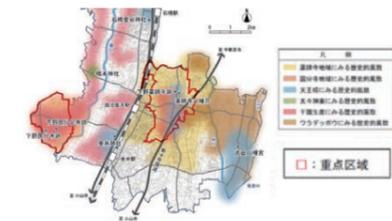
国の天然記念物であり、地球最後の地磁気逆転現象の痕跡を、連続的に捉えることができる世界的にも稀有な場所で、日本初の国際境界模式地に認定されています。当社は、天然記念物を適切に保存し、研究教材、資源として活用できるように、保存活用計画、整備基本計画、設計まで一貫して関りました。



### 歴史まちづくり

#### 下野市歴史的風致維持向上計画策定

歴史と伝統を反映した人々の営み・生活・活動も含めた多様な歴史資源を発掘・組合せ、エリア・拠点における区域設定を行い、具体的な整備のイメージまでを描き、歴史・文化を活かしたまちづくりを効果的に推進するための計画策定を行いました。



### 歴史公園及びガイダンス施設の設計

#### 平城京いざない館

国営平城宮跡歴史公園は、特別史跡であり、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つです。また、我が国を代表する歴史・文化資産であることから、一層の保存・活用を図ることが期待されています。平城京いざない館は、朱雀大路を中心に観光拠点ゾーン「朱雀門ひろば」に整備されたガイダンス施設であり、当社は、構想、計画、設計・現場監理(松田平田設計とJV、当社は景観・外構を担当)、及び展示基本設計を担当しました(2018年3月開館)。

### 文化財の活用・情報発信

#### 平城宮跡における現場公開計画策定

復原整備中の平城宮跡歴史公園内の「第一次大極殿院南門」において、奈良時代の古代技術の知識と理解を深め、優れた伝統技法を継承する復原事業の意義と復原過程を情報発信し、復原の工事現場についても広く公開することを目的とした現場公開の計画及び実施を行いました。



### 土木遺産の保存・活用

#### 旧江ヶ崎跨線橋の霞橋への移設・再利用

1896(明治29)年建造である旧江ヶ崎跨線橋の再利用計画の立案、霞橋への移設・改修設計、空間デザイン及び広報支援、モニユメント保存計画、案内サイン設計を行いました(平成25年度土木学会田中賞受賞)。



## 観光

市場調査、参加型ワークショップ、観光振興計画策定、観光プロモーション、事業化調査(F/S)に至る観光計画をはじめ、着地型旅行商品の開発、訪日外国人旅行者の受入環境整備事業や、誰もが安全・安心に旅行できる環境を整えるユニバーサルツーリズムの促進にも積極的に取り組んでいます。



### 地域観光に係る中期ビジョンの策定

#### 観光振興を通じた地域づくりの推進

全国各地において、交流人口により地域に活力を呼び込むための観光ビジョンを手がけるとともに、沖縄県では観光振興の中期計画「沖縄観光推進ロードマップ」の運営管理を行い、沖縄県のリーディング産業である観光振興の取り組みに持続的に貢献しています。



### 地域ブランドの構築と普及

#### 地域ブランドの構築と観光プロジェクトの推進

地域活性化の推進のために地域の認知度向上、魅力発信を目的に地域ブランドの構築に取り組んでいます。青梅市においては、地域資源や歴史的背景を踏まえたブランド【OmeBlue】を立ち上げ、地域ブランドに紐付いた観光プロジェクトの推進を図っています。



### ラグジュアリートラベルの取り組み推進

#### 富裕層旅行者市場の市場形成に向けて

地域における観光消費額の増加、良好な観光コンテンツの創出を目指して富裕層旅行市場の形成に取り組んでいます。沖縄県では県内の状況を調査するとともに、富裕層旅行代理店との意見交換を行い今後の取組方策と課題を整理しました。



### インフラツーリズムの推進

#### ダムや治水施設などを地域の観光資源として活用

地域に立地するインフラ施設を観光資源として活用するインフラツーリズムの推進に取り組んでいます。日本の代表的な治水施設である「首都圏外郭放水路」について、外国人観光客にも楽しんでいただけるよう、案内施設やパンフレットの改修など受入環境整備に取り組ましました。



### ユニバーサルツーリズムの促進

#### 誰もが安心して旅行できる地域づくり

高齢者、障害者など誰もが安心して旅行できる地域を作るため、受入環境整備、人材育成、プロモーション、組織・体制構築などに取り組んでいます。沖縄県においては、障害者等の接遇セミナーの企画・運営、プロモーションの実施、3世代旅行商品の造成などに取り組ましました。



### 観光交通の取組み

#### 沖縄県における観光2次交通オープンデータ整備の取組み

沖縄県内のモノレール、バス等の全公共交通情報および主要観光地等の情報を、検索サイトや関連事業者等が活用しやすいGTFS形式で整備を行いオープンデータとしての発信を行いました。またGoogle社へのデータ提供により、Googleマップでの乗換検索可能な環境構築を行いました。



データを活用した公共交通情報の案内(那覇空港デジタルサイネージ)

### 訪日外国人向け観光コンテンツの開発

#### 訪日外国人旅行者向け旅行商品の造成

訪日外国人旅行者を地域に呼び込むための受入環境整備や外国人向け旅行商品の造成などに取り組んでいます。薩摩川内市においては、地域の観光資源である武家屋敷などを活用したサムライツーリズムの推進に取り組ましました。



### オンラインツアーのプロデュース

#### ポストコロナを見据えたオンライン誘客の推進

移動制約があるコロナ禍や、遠隔地、秘境の観光地域において、地域の魅力を発信し、相互の交流を行うオンラインツアーが注目されています。山梨県南アルプスにて、広域の魅力を地域の人々との交流を織り交ぜながら紹介するオンラインツアーを開発し、地域への来訪促進や地域物産の情報発信を行いました。



### 訪日プロモーション

#### 訪日外国人誘致を見据えたプロモーション動画の作成

訪日外国人に対して視覚的に地域資源の価値や魅力を伝えるため、広告効果の高い動画コンテンツの需要が高まっています。インフラ施設でありながら貴重な生態系を有する「渡良瀬遊水地」において、外国人旅行者が来訪し、役割を学びながら満喫する動画コンテンツを制作し、WEBでの展開を図りました。



### 地域独自の観光コンテンツ開発

#### 地域の魅力を活かした旅行商品の造成

地域経済を支える観光の復興に向けて、地域の稼げる商品の創出が求められています。福岡県行橋市において、地域の事業者、大学等と連携しながら自然、農業、食、歴史・文化等の地域ならではの観光資源を活用したコンテンツの造成やモニターツアーによる磨き上げ、プロモーション媒体の整備等を行いました。



### DX推進による観光コンテンツ開発

#### デジタル技術を活用した観光コンテンツ制作

専門的観点から価値の高い施設等を一般の方向けに観光活用するため、デジタル技術を活用した観光コンテンツの制作を行っています。「渡良瀬遊水地」において、空撮した360度映像や3DCGを用いたVRコンテンツを制作し、インフラ施設としての機能配置・役割や、自然・歴史遺構、四季の魅力を紹介しています。



### エコツーリズムの振興

#### 地域全体で自然環境を観光資源へ

自然環境を観光資源として位置づける場合、保全と利用の両立が重要な課題となっています。沖縄県では、自然環境などを活かした観光プログラムであるエコツーリズムの取組を、地域と一体となって進めています。その中でも環境保全のルールづくりや運用、モニタリング、観光客の受入のスキル向上に向けた研修会やプロモーションの支援を行いました。

### 地域の魅力を発信する物産商品の開発

#### 地域ブランドを発信する観光物産商品の開発

地域の魅力を伝達し交流人口、関係人口を創出するためには地域ブランドを物産商品化し、地域発の商品として発信していくことが有効です。山梨県の南アルプスでは、地元の女性商品開発グループと協働し、地酒やストーリーを紹介するリーフレットをセットにしたギフト商品を開発、販売しました。



### 「食」の開発を通じた地域ストーリー発信

#### 地域に伝わる食の復刻と観光コンテンツ化

地域が歩んできたこれまでのストーリーに即した食文化を提供することは来訪者の満足度に影響する重要事項です。神奈川県山北町では、かつて鉄道の町として栄えてきた背景から、当時の鮎寿司を復刻し、鉄道ツアーの参加者に提供した事で来訪者の満足度を高めました。



## 環境

環境・経済・社会の価値のバランスの上に、持続可能な都市・地域づくりを行います。  
人と自然の共存を目指し、社会環境・生活環境の保全、自然環境保全・再生、地球規模の環境問題への対応など、様々な側面から技術サービスを提供しています。  
また、環境、経済、社会の価値のバランスを得ることで、持続可能性の高い取り組みを行っています。



### グリーンインフラ

#### 軌道緑化の実現に向けた現地実験

グリーンインフラの一環として、軌道緑化によるヒートアイランド現象の緩和、緑のネットワーク構築を目指し、東京都電車における軌道敷の緑化のため、植栽種や植栽基盤毎に生育状況や維持管理方法等に関する現地実験を行いました。

### 自然再生

#### 渡良瀬遊水地の環境保全調査

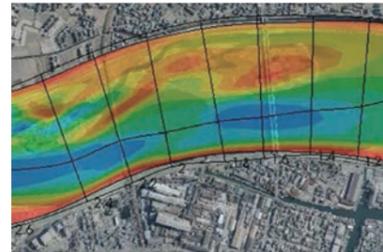
ラムサール条約湿地に登録された大規模な湿地である渡良瀬遊水地において、ヨシ焼き等の影響による植物の変化を調査し、保全対策を検討しました。



### 河川環境保全

#### 河川改良事業における生物多様性への配慮

河川改良事業において、水害リスク低減など防災等の観点だけでなく、事業により改変される河川環境について河川生物の生息適地の観点から評価を行い、生物多様性に配慮した河川改良計画を検討しています。



### 水環境保全

#### 名勝洗足池公園の水環境改善対策

雨水浸透集水施設の整備・維持更新、水質浄化施設の効率的な維持・更新、植物や動物が持つ機能を活用した水質改善対策を提案し、基本構想を策定しました。



### 自然環境保全

#### 生物多様性・環境アセスメント

持続可能な社会を実現するため、社会資本整備における環境負荷を低減させ、生物多様性の確保、生態系の保全、生活環境の保全などを目指した環境アセスメント、環境調査を実施しています。



### グリーンインフラ

#### 地域活性化を目指したホテル復活PJ

グリーンインフラを活用し、開成町の更なる魅力向上や、ホテルの里づくりを通じた“環境コミュニティー”の形成を目指し、指定管理業務を受託している瀬戸屋敷において、令和元年6月よりホテルの飼育を行っています。



### 環境アセスメント

#### 環境アセスメント図書の作成

大気環境、水環境、土壌環境、動物、植物、生態系、景観、人と自然との触れ合い活動の場、廃棄物等、温室効果ガスなど多面的に環境影響評価を行い、道路、鉄道、道路、鉄道、公園、大規模施設、風力発電等の環境アセスメント図書を作成しました。



## カーボンマネジメント・エネルギー

ゼロカーボン計画、エネルギービジョンなどの計画づくりから、脱炭素社会実現のための各種計画（モビリティ・EMS・VPP等）、環境にやさしい設備導入の検討・設計・事業まで、全国の自治体の環境行政を幅広く支援しています。  
また、再生可能エネルギーに関する自主事業を数多く生み出すとともに、エネルギーの地産地消、売電事業を推進し、持続可能な地域づくりを行っています。



### 再生可能エネルギー事業

#### 米沢大平小水力発電事業

山形県米沢市内にて、4箇所目の自社発電事業となる小水力発電所の運転を令和3年11月から開始しました。FIT（固定価格買取制度）を活用し、最大出力は198.0kW、年間発電量は、FIT期間20年間で113万kWh（一般家庭350世帯分の電力需要に相当）を見込んでいます。普通河川である横川に地域が設けた既存かんがい用水設備の一部を、発電用水路として更新、共用することにより、地域のかんがい設備の再生の役割も担っています。

### 再生可能エネルギー導入計画

#### 小千谷市錦鯉関連施設等の再生可能エネルギー導入可能性調査

小千谷市の一大産業である錦鯉の養殖の維持管理費を低減するとともに、市の魅力発信の中心となる錦鯉鑑賞施設「錦鯉の里」において、地中熱ヒートポンプなどの再生可能エネルギーの導入可能性調査を実施しました。



### 再生可能エネルギー事業

#### 農を生かした健康・福祉の里づくりでのバイオガス発電

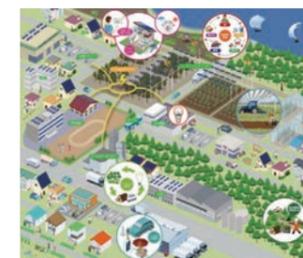
北中城村が進める農を生かした健康・福祉の里づくりにおいて、地域の生ごみを活用したバイオガス発電を行い、電力は併設する植物工場で利用し、発生する残渣を肥料として活用し、農業振興と資源循環を実現するプロジェクトを計画策定から実装まで支援しました。



### ゼロカーボン戦略

#### かすみがうら市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

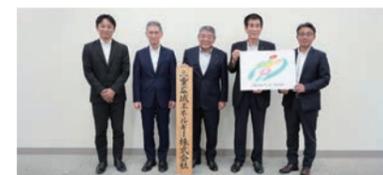
かすみがうら市における「2050年温室効果ガス実質排出ゼロ」を達成するため、域内の再エネ調査及び導入目標の設定、2050年を見据えた脱炭素シナリオ、将来ビジョンの策定やその実現のための施策の検討などを行いました。



### 脱炭素先行地域

#### 6町の地域連携での脱炭素・資源循環プロジェクト

三重県の6町（度会町および多気町、明和町、大台町、大紀町、紀北町）において、当社も共同提案者として「脱炭素先行地域」が採択されました。地域新電力会社を設立し、「度会町中心エリア」と「多気町VISON周辺エリア」において、木質バイオマス発電や太陽光発電の導入を行い、脱炭素化と資源循環の促進とともに、地域課題の解決・活性化を目指しています。



### EVバスの普及促進

#### 電動トラック・バスにおける性能評価実証事業（EVバス普及に向けた国内技術の経済優位性の実証）

実際に経年使用したEVバスを用いて、EVバス蓄電池を劣化診断して蓄電池の寿命の実証（定量化）を行い、蓄電池を長期間安心してバスで利用した後のカスケード利用などを総合的に取り入れたビジネスモデルの経済優位性を実証することで、EVバス普及促進を図ることを目的としています。



### 建築物のZEB化

#### ZEB化建築の設計及び指針づくり

南紀白浜ワーケーション施設では、建築計画の工夫による高断熱化、高効率化による省エネと、太陽光発電等による創エネにより、Nearby ZEBを実現しました。また、公共施設のZEB化設計の指針づくりでは、葛飾区の区有建築物のZEB化に向けて、導入コストの整理、省エネ効果を踏まえた導入する仕様・設備等の優先度の検討を実施し、2050年までのZEB化ロードマップを作成しました。



# 地域拠点におけるエリアマネジメントの 実践

～コンサルティングと事業経営の両面から地域を活性化～

ポストコロナ時代、多くの地域において、地域特有の資源や環境を活用した魅力・個性あるまちづくりに向けた取組は加速しています。

私たちは、地域のまちづくりに関するコンサルティングと、地域拠点における事業経営の担い手の両面から地域の活性化に貢献してまいります。



前橋市新設道の駅整備運営事業  
道の駅まえばし赤城の運営

日本初の事業手法である計画付き事業者公募(計画・設計・建設・運営維持管理を同一の事業者が行う事業手法)による前橋市新設道の駅事業です。当社は、地元企業とともに、特別目的会社(SPC)を設立し、行政、地元企業、生産者の方々などの多くの関係者と一体となり、地域経営さらには、エリアマネジメントの拠点として進めています。2023年3月21日にオープンし、開業1年目には、約400万人以上の方々ที่มา訪されています。宝島社発行の田舎暮らしの本「道の駅を制覇したプロたちが選ぶ2025年版道の駅大賞」にて、全国総合1位に選出されました。

## 総合事業・事業経営

自らが事業主体となり、事業への投資も視野に入れて事業を展開する事業経営と、あらゆる要素技術を駆使した総合事業で、地域課題を解決するだけでなく、地域の将来ビジョンを提起し、地域とともに魅力ある持続可能な社会を創造しています。

### 北九州エリア



#### 公園の魅力向上事業 (PPP事業)

##### キャンプ場の整備運営

北九州市立響灘緑地において、地元放送局と設立した共同事業体によるPPP事業として、キャンプ場の設計、施工、運営を一体的に実施し、公園の新しい使い方やサービスの提供による魅力向上に取り組んでいます。



#### 地域会社 (100%子会社) の創設

##### 地域の食の魅力発信

当社の子会社である(株)フーディアは、北九州を中心に飲食事業を展開しています。指定管理施設の飲食サービス事業として、地産地消のメニューを提供し、地域の食の魅力を発信しています。また、大規模な食イベントも定期的に開催し、TGC北九州のケータリングサービスにも参画しています。



#### 公園の魅力向上事業 (PPP事業)

##### 空中冒険遊具の設置運営

北九州市立響灘緑地において、自社投資によるPPP事業として、「空中冒険遊具あみ〜ご!」を設置、運営し、公園の魅力向上に取り組んでいます。開設当時、西日本初のアスレチック遊具は、今も多くの子供たちに大人気です。



#### 総合公園の運営管理

##### 行橋総合公園の指定管理者

行橋市体育施設、行橋市宿泊型研修施設、行橋総合公園を総称し「シキサイト行橋」の愛称のもと、四季を通じた催事を開催し、市民のみならず、近隣市町村の大会・スポーツの拠点、地域のイベント会場として親しまれています。



#### 公園の運営管理 (指定管理者)

##### 福岡県北九州市響灘緑地の指定管理者

北九州市で最大の有料の都市公園です。1年を通じて賑わいづくりを展開し、令和元年度は20年以上ぶりに入園者が年間51万人を超えました。公園の運営管理を通じて、地域連携を強化し、地域活性化の取り組みを展開しています。

#### マリンスポーツによる賑わい創出

##### 行橋市長井浜公園の指定管理者

長井浜公園は途切れないフラットな水平線の長井浜海岸と隣接しており、指定管理事業を通じて海岸を活用したマリンスポーツを展開し、市内だけでなく市外からも誘客を図り、地域の活性化事業に取り組んでいます。



#### 地方都市の地域活性化事業 (PPP事業)

##### 体験型研修宿泊施設「そらすな」の整備運営

福岡県行橋市の長井浜公園において、体験型研修宿泊施設「そらすな」を自ら投資して整備し運営しています。この施設を核に、周辺地域と連携し、地域や市の滞在人口や交流人口の増大等、地域の活性化に取り組んでいます(2024年グッドデザイン賞受賞)。



### 群馬エリア



#### 公園の運営管理 (指定管理者)

##### 民間事業者との連携による魅力向上

群馬県の敷島公園の運営管理を行っています。全国マスターズ陸上大会を誘致するなど、公園の利用促進を図るとともに、Park-PFI制度を導入し、公園の魅力を高める新たな施設を誘致しました。



#### 農業6次産業化支援

##### 食と農業のプロデュース

(株)オリエンタル群馬では、食と農業のプロデュースとして農業6次産業化や地産地消を推進するため、県内の農業生産者と地域商店をつなぎ、ブランドメニューの開発や情報発信をしています。



#### スポーツ関連事業

##### ホームタウンマネジメント事業

県立敷島公園をホームとしてJ2のザスパクサツ群馬と協働で、ファン層の拡充をはじめ、公園の新たな価値の創造に向けた取り組みを展開しています。その一環として、冠マッチや親子体験型の天然芝体験イベント等を行っています。



#### 公園の魅力向上事業 (PPP事業)

##### 立体迷路の設置運営

新たな魅力向上を目的として、子どもの体育・育育という観点から新規大型遊具(立体迷路)をPPP事業として設置運営しています。新たな客層の獲得をはじめ公園での新たな過ごし方の提供が可能となりました。



#### 道の駅事業 (PPP事業)

##### 前橋市新設道の駅整備運営事業 (道の駅まえばし赤城の運営)

道の駅まえばし赤城の運営は、地元建設会社の(株)ヤマト、(株)オリエンタルコンサルタンツ及び100%子会社の(株)オリエンタル群馬の3社が出資して設立した(株)ロードステーション前橋上武が担っています。そして、道の駅の基幹店舗である農産直販売所は、直営とし、200以上の地元生産者とともに生産者組合も創設して、栽培・集荷調整から品質管理等まで協働で行い、農業振興を推進しています。田舎暮らしの本「道の駅を制覇したプロたちが選ぶ2025年版道の駅大賞」にて、全国総合1位に選出されました。

#### 公園の管理運営 (指定管理者)

##### 群馬県における地域活性化事業

多くの前橋市民から愛されている前橋市中央児童遊園の管理運営を行なっています。開園61年で初の夜間開園等を地域企業・市民と協働展開し、平成29年度には、指定管理者が民間に移行されて過去最高の利用者数を記録しました。



#### 地域会社 (100%子会社) の創設

##### 地域経営の推進役

当社の子会社である(株)オリエンタル群馬は、地元アーティストの方々とともに前橋市公式観光パンフレットを制作し、(一社)地域活性化センター賞を受賞しました。また、前橋工科大学と地元製造業の方々と連携し自動芝刈り機の開発等の共同事業を進めています。



総合事業・事業経営

神奈川エリア



地域ブランディング事業(事業経営)

株式会社瀬戸酒造店の酒造再生による地域活性化事業  
開成町北部地域活性化の核として、自家醸造を休止していた株式会社瀬戸酒造店を子会社化して酒造りを再始動しました。地域の米と水、オリジナル酵母を使った日本酒の製造、販売、体験事業の他、酒粕や麴を活用した発酵による農業6次化を展開しています。世界の日本酒コンクールで多くの賞を受賞し、2022年の世界酒蔵ランキングではTOP10にランキングされ、国内はもとより海外への輸出にも力を入れております。開成町を代表する地元企業として地域産業をけん引しています。

その他のエリア



ワーケーション事業/和歌山県白浜町

南紀白浜ワーケーション施設「Office Cloud 9」の整備運営  
南紀白浜空港に隣接する展望広場の敷地を活用し、ワーケーション施設(名称「Office Cloud9」)を運営しています。「地域ゲートウェイとしての総合ビジネス拠点」を整備コンセプトとし、地域の紀州材の活用や熊野本宮大社の屋根をモチーフとした特徴的なフォルム等、白浜らしさを感じる施設です。施設内は、「企業向け」と「一般利用者向け」に分けており、木の香りのするリラックスできる空間となっています。空港滑走路や太平洋のダイナミックなパノラマ景観を眺望しながら、交流・商談にも活用できます。また、SDGsを念頭に、施設の屋根には太陽光発電パネルを設置し、電気を自家消費しているほか、省エネ効果の高い設備を導入したことで「Nearly ZEB」の認証を取得した、環境にやさしい施設です。

古民家の運営管理

「あしがり郷瀬戸屋敷」の指定管理者

町の重要文化財である築300年の古民家「あしがり郷瀬戸屋敷」の指定管理者として、昔ながらの釜戸や囲炉裏を活用した体験コンテンツを都心からの来訪者や外国人に提供し、地域の文化、暮らしを発信する交流拠点の役割を担っています。



地産地消の飲食事業

「café hacco」の運営

「あしがり郷瀬戸屋敷」の敷地内で、瀬戸酒造店の麴や酒粕を用いたドリンクやスイーツを提供するカフェを運営しています。醤油麴づくりなどのワークショップや、地域のクラフト作家の作品の展示販売など、地域のコミュニティの場として親しまれています。



農産物直売所の運営

「atelier hacco」の運営

「あしがり郷瀬戸屋敷」の敷地内で、農産物や工芸品を販売する地域交流拠点を運営しています。季節の果物をトッピングした瀬戸酒造店の酒粕を練りこんだソフトクリームは、地域の新しい名物として人気を博しています。



着地型観光事業/山梨県南アルプス市

株式会社南アルプスゲートウェイ設立

南アルプス地域を拠点として、着地型のトレッキングツアーやフィールドツアーの企画運営、南アルプスの山小屋の予約管理システムの運営を行い、観光振興を通じた地域の課題解決や地域活性化を進めています。



観光拠点施設の運営/山梨県南アルプス市

温泉・宿泊施設、レストランの運営

株式会社南アルプスゲートウェイでは、南アルプス登山の拠点となる芦安地域において地元企業と連携し、山岳観光の拠点となる温泉・宿泊施設、レストランの運営を行っています。施設運営を通じて、観光振興、地域振興に取り組んでいます。



宿泊施設の運営/宮城県美里町

「でんえん土田畑村」の運営

宮城県美里町の「美里町交流の森・交流館」、愛称「でんえん土田畑村」の運営管理を行っています。音楽&マルシェ、農業体験、ピザづくり体験といった季節のイベントや、地域の食材を用いたBBQなど、地域の魅力を地域の方とともに提供しています。



農業6次産業化支援

発酵食品の商品開発と販売

瀬戸酒造店の麴や酒粕を活用し、醤油麴、塩麴、酒粕酢などの調味料や、わさび漬、イカの塩辛といったオツマミを商品開発し、販売することで、発酵文化の面白さや奥深さを伝えています。



公園の運営管理(指定管理者)

厚木市荻野運動公園の指定管理者

総合運動公園として、トップカテゴリーの試合、市民大会、個人利用、レクリエーション利用など幅広い利用者を受け入れ、厚木市の魅力と価値を一層高める施設運営を行っています。



自転車駐車場の運営管理

厚木市自転車等駐車場の指定管理者

厚木市内にある6カ所の自転車等駐車場を利用者に安心・安全に利用していただくための様々なサービスを提供しています。また、人と街、人と場所、街と場所などの結節点として地域課題の解決を目指しています。



持続可能な観光地域づくり

観光マーケティング&マネジメント支援システムの構築

沖縄県南城市と連携し、観光客WEBアンケート・可視化システムによる観光ニーズのモニタリングとストック活用、AIカメラによる観光施設のリアルタイム混雑情報発信に取り組んでいます。



観光交通導入支援

観光スローモビリティ事業

沖縄県南城市市内での観光移動の利便性を向上し、滞在や周遊、消費等を促進するため、小型モビリティ、レンタサイクル(電動、折りたたみ)、EVカート等を、主要観光スポット等に配置し、これらのモビリティを活用した新たな観光スタイルを提案しました。



「食」の発信による地域活性化

公設市場活用事業

沖縄県那覇市の第一牧志公設市場や中心商店街では、利用者・来訪者、消費額の拡大などを通じた活性化が求められています。多様な関係者と連携しながら「食」をキーワードに発信し、活性化につなげる取り組み「NAHA's Kitchen」を展開しています。



# オリエンタルコンサルタンツグローバルと共に海外事業を推進

～国内で培った技術力・マネジメント力を活用し、海外に展開～

このモドゥモティ橋(カルナ橋)が開通したことで、渡河時間はわずか数分に短縮されました。

さらに、主要都市間の交通や物流ネットワークが改善されたことで、周辺国との貿易促進や南アジア全域の経済発展への期待も高まっています。私たちは、この事業の完成に貢献するにとどまらず、国内で培った高度な専門技術力とマネジメント力を発揮して、多くの国家的プロジェクト

に取り組み、総合力で貢献してまいります。



海外インフラ支援  
モドゥモティ橋、バングラディシュ  
(令和5年度土木学会技術賞(IIグループ)受賞)。

海外

オリエンタルコンサルタンツグローバルと共に海外インフラ整備事業を推進しています。また、日本の質の高いインフラ輸出や国内企業の海外展開支援等を実施しています。



海外インフラ支援

★ウガンダ、ジンジャ橋建設工事事業

オリエンタルコンサルタンツグローバルとともに海外インフラ整備事業を推進しています。また、日本の質の高いインフラ輸出や国内企業の海外進出支援を実施しています。



海外インフラ支援

横浜:TICAD9 テーマ別イベント「QIC」

横浜で開催されたTICAD9のテーマ別イベントとして、日・アフリカインフラ会議が開催され当社が事務局を担当しました。会議当日は国際機関、JAIDA会員企業、一般参加者を含め300名以上が参加し、各国のインフラ事情や日本の持つ質の高いインフラ技術が紹介されました。

総合都市交通計画

★バングラデシュ:ダッカ交通安全イベント

JICA技術協力プロジェクトとして、子供向け交通安全教育、安全な歩行環境整備の社会実験、交通安全知識調査などに取り組んでいます。ダッカ首都警察やダッカ北市と協力し、セサミワークショップも開催しています。



公共交通改善事業

★ラオス国:バスの運行改善事業

首都ビエンチャンにおいて、バス利用の促進に向けた運行改善やサービス向上に関する技術指導に参加し、バスターミナル施設などの改善計画をアドバイスしました。



海外インフラ輸出

★高速鉄道技術の海外進出

高速鉄道計画策定の実績をもとに、わが国の高速鉄道技術の海外展開の先駆けとして、各国との信頼関係構築に貢献しています。現在、インド新幹線の整備計画立案及び設計に参加しています。



国内企業の海外展開支援

JASMOC:企業セミナー

中堅・中小建設企業の海外展開支援に資する目的で、海外におけるプロジェクトマネジメントを基礎から学ぶセミナーを企画・運営しています。



国内中小企業の海外展開支援

タイ:道路交通セミナー

タイ王国において、道路交通分野における国内企業の事業展開を推進、支援することを目的に、国土交通省とタイ王国運輸省が共同で開催した日・タイ道路交通技術セミナーの企画、運営を実施しました。



海外地球温暖化対策

途上国都市間との低炭素化事業

フィリピン国ケソン市やベトナム国ホーチミン市を対象として気候変動政策策定等を本邦企業と協働し、低炭素化の調査を行い、日本の低炭素技術の展開に向けた調査を支援しました。



海外インフラ整備

南アフリカ:中小企業支援

JICAの中小企業支援スキームを使い、南アフリカへの軌道関連案件を支援しました。



海外インフラ整備

★フィリピン国:BIM・CIM技術を活用した設計業務

複雑な立体交差や建築・土木構造の技術的な課題について、BIM/CIMの活用によって関係者間と情報を共有し、非言語化によるスムーズな合意形成を実現しました。



国際会議運営

フィリピン:JIPAD防災セミナー

我が国の防災政策、技術やノウハウを一体的に紹介するとともに、官民ネットワークを構築し、防災協力関係を強化する目的でJIPAD(防災技術の海外展開に向けた官民連絡会)が設立され、各国でセミナーなどを開催しています。



国内中小企業の海外展開支援

ベトナム国:地下水を飲料水にする水道水品質向上技術の普及・実証事業

ベトナム国ハノイ市では、地下水を水源とした浄水場の老朽化が進んでおり、水道に混入する鉄、マンガン、アンモニアなどの不純物処理の課題に対し、薬品を使わずに空気と微生物を使い、高速で除去する水処理装置を活用し、安全な水を供給することを目的とした普及・実証事業を支援しました。



海外インフラ輸出

フィリピン国南北通勤線鉄道事業

マニラ首都圏において円借款による鉄道事業を進めています。現在は総延長117kmに及ぶ延伸区間の鉄道を整備中で、当社のエンジニアは施工監理や修正設計に従事しています。



JCM事業

モンゴル:冬の都市市長会

「ウランバートル市の寒冷地における環境インフラ導入促進事業」の一環として冬の都市市長会がウランバートルで開催されました。我が国が培ってきた寒冷地における脱炭素都市作りの経験を各国に広めています。



★は株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバルのプロジェクトに株式会社オリエンタルコンサルタンツが参画しているものを掲載しています。

「社会価値創造企業」へ、  
これからも地域社会の課題に、  
価値あるソリューションを  
提供してまいります。





株式会社 **オリエンタルコンサルタンツ**

[www.oriconsul.com](http://www.oriconsul.com)

**本社**

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館  
TEL:03-6311-7551(代表) FAX:03-6311-8011

**北海道支社**

〒001-0019 北海道札幌市北区北19条西3-2-16  
TEL:011-776-6120(代表) FAX:011-776-6121

**東北支社**

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング  
TEL:022-215-5522(代表) FAX:022-215-5622

**関東支社**

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館  
TEL:03-6311-7851(代表) FAX:03-6311-8021

**北陸支社**

〒950-0087 新潟県新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟  
TEL:025-244-7881(代表) FAX:025-244-7387

**中部支社**

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-14-19 住友生命名古屋ビル  
TEL:052-564-7711(代表) FAX:052-564-7721

**関西支社**

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル  
TEL:06-6479-2551(代表) FAX:06-6479-2320

**中国支社**

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀5-7 広島KSビル  
TEL:082-223-0030(代表) FAX:082-223-0005

**四国支社**

〒760-0023 香川県高松市寿町1-3-2 日進高松ビル  
TEL:087-821-4012(代表) FAX:087-826-5251

**九州支社**

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-8 住友生命博多ビル  
TEL:092-411-6209(代表) FAX:092-411-3086

**沖縄支社**

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-22-10 那覇第一生命ビルディング  
TEL:098-860-8403 FAX:098-860-8406

**Instagram 公式アカウント**



(アカウント名:oriconsul\_official)

**X 公式アカウント**



(アカウント名:oricon\_official)